

IBM Content Manager OnDemand for iSeries



インストール・ガイド

バージョン 5 リリース 3

IBM Content Manager OnDemand for iSeries



インストール・ガイド

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書の情報およびそれによってサポートされる製品を使用する前に、59ページの『特記事項』に記載する一般情報をお読みください。

本書は、IBM Content Manager OnDemand for iSeries のバージョン 5、リリース 3 に適用されます。本書は、RISC システムにのみ適用されます。

本書は、SD88-5070-03 の改訂版です。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC41-5333-04
IBM Content Manager OnDemand for iSeries
Installation Guide
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.4

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1997, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

IBM Content Manager OnDemand for iSeries インストール・ガイド

(SD88-5070) について v

本書の対象読者 v

前提条件および関連情報 v

iSeries ナビゲーター vi

I 変更の要約 vii

第 1 章 インストール要件 1

セキュリティー 1

OnDemand for iSeries ハードウェア要件 1

オプションのハードウェア 1

OnDemand for iSeries ソフトウェア要件 1

オプションのソフトウェア 2

OnDemand for iSeries 印刷処理要件 2

OnDemand for iSeries 記憶域要件 2

OnDemand クライアント・ワークステーション要件 2

IBM から配布 3

第 2 章 OnDemand のインストール 5

OnDemand のインストール手順 5

I スプール・ファイル・アーカイブ用の

I QALWUSRDMN システム値 6

OnDemand クライアントのインストール 6

インストールの検査 6

スプール・ファイル・アーカイブ機能 6

オブジェクト・アーカイブ機能 7

クライアント/サーバー機能 7

インストール検査の完了 7

OnDemand スプール・ファイル・アーカイブ機能の機

能テスト 8

OnDemand のテスト 8

保管されている報告書の検索 8

ATTN キーのテスト (印刷、ファクシミリ送信、

または注釈の処理を行う場合) 11

機能テストの完了 12

問題判別支援 12

第 3 章 OnDemand の概要 15

OnDemand の機能 15

スプール・ファイル・アーカイブ 15

オブジェクト・アーカイブ 16

AnyStore 16

クライアント/サーバー 17

データの検索 17

データの印刷 17

システム・セキュリティー 17

光ディスクおよびテープ・メディアの管理 17

OnDemand に関する用語および定義 18

ヘルプの入手 20

画面全体のヘルプ 20

フィールドのヘルプ 21

OnDemand のメイン・メニュー 22

高速パス・コマンドの使用 23

第 4 章 OnDemand の業務環境の定義 25

業務方針の確立 25

ユーザー指針の設計 25

保存内容の選択 25

スプール・ファイル・アーカイブ用報告書の識別 26

オブジェクト・アーカイブ用オブジェクトの識別 26

AnyStore 用項目の識別 26

保存およびアクセスの要件 27

災害時回復計画の作成 27

法定要件の順守 27

記憶メディアの選択 27

ディスクでのみ保管 28

光ディスクへの保管 28

テープ・メディアへの保管 29

マイグレーション方針の確立 30

報告書のセットアップ 30

スプール・ファイル・アーカイブ報告書の定義 30

報告書の保管 31

オブジェクト・アーカイブの定義 31

AnyStore の項目の定義 32

アプリケーション・プログラムへの AnyStore API

の追加 32

セキュリティーの確立 32

OnDemand アプリケーション・レベルのセキュリ

ティー 33

報告書レベルのセキュリティー 33

報告書グループ・レベルのセキュリティー 33

キー・レベルのセキュリティー 34

オブジェクト・アーカイブのセキュリティー 34

AnyStore のセキュリティー 34

OnDemand へのデータの入力 34

メディアのセットアップ 34

マイグレーション方針テーブルの記憶域要件の定

義 35

報告書検索基準の選択 35

定義のための報告書データの用意 36

優先ユーザー・インターフェースの決定 36

報告書用カスタマイズ図表のサンプル 36

付録 A. OnDemand の HFS から IFS

へのデータ変換 39

概要 39

変換の概要 40

一般的な指示および前提条件 41

ディレクトリーの作成 42

報告書の移動	46	レコード・アーカイブ機能	58
"Moved" 状況のクリア	49	AnyStore 機能	58
HFS フォルダの削除	51	クライアント/サーバー機能	58
付録 B. システムから OnDemand を削		特記事項	59
除する場合の考慮事項.	55	プログラミング・インターフェース情報	61
基本機能	55	商標	61
スプール・ファイル・アーカイブ機能	56	索引	63
オブジェクト・アーカイブ機能	57		

IBM Content Manager OnDemand for iSeries インストール・ガイド (SD88-5070) について

本書では、IBM® Content Manager OnDemand for iSeries™ (OnDemand) ライセンス・プログラムのインストール方法について説明します。OnDemand (前のリリースではデータ保管/管理プログラムまたは R/DARS と呼んでいました) により、大量のヒストリカル・データをディスク、大容量の光ディスク・ボリュウム、またはテープに保管することができます。また、オンライン検索により、保管されたデータへの迅速なアクセスが可能になります。

本書で示している手順や例を使用して、以下のタスクを行うことができます。

- インストール要件の理解
- OnDemand のインストールおよびインストールの検証
- データへのアクセスの認可および取り消し
- OnDemand の概要の理解
- OnDemand の業務環境の定義

本書を使用することにより、ディスク、光ディスク、およびテープ・メディアを組み合わせ、メディアを最大限に活用することができます。

本書の対象読者

本書は、情報の保存および検索を行うために OnDemand のインストールを担当するプログラマーや OnDemand 管理担当者の方々を対象にしています。

前提条件および関連情報

iSeries に関する技術情報が必要な場合、まず IBM iSeries の Information Center を利用してください。

以下の 2 通りの方法で Information Center にアクセスすることができます。

- Web サイト: <http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter>
- ご注文の Operating System/400® とともに出荷される CD-ROM:

iSeries V5R3 Information Center, SK88-8055-03。このパッケージには、PDF 版の iSeries マニュアル、「*iSeries V5R2 Information Center: 補足資料*, SK88-8056-01」も付属しています。これは、ソフトコピー・ライブラリーの CD-ROM に置き換わります。

Information Center には、Java™、TCP/IP、Web サービス、セキュア・ネットワーク、論理区画、クラスター化、CL コマンド、システム・アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) などについてのアドバイザーおよび重要なトピックがあります。また、関連する IBM Redbooks™ や IBM ホーム・ページなど、他の IBM Web サイトへのインターネットのリンクもあります。

iSeries ナビゲーター

IBM iSeries ナビゲーターは、iSeries サーバーを管理するための強固なグラフィカル・インターフェースです。iSeries ナビゲーターの機能には、システム・ナビゲーション機能、構成機能、計画機能、およびタスク全体で指針となるオンライン・ヘルプがあります。iSeries ナビゲーターは OS/400® の新しい拡張機能の唯一のユーザー・インターフェースであり、これを使用することで、サーバーの操作と管理がより簡単になり、生産性も向上します。iSeries ナビゲーターには、複数のサーバーをセントラル・システムから管理するマネージメント・セントラルも組み込まれています。

iSeries ナビゲーターの詳細は、iSeries Information Center および Web サイト：
<http://www.ibm.com/eserver/series/navigator/> を参照してください。

変更の要約

この版の「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries* インストール・ガイド」には、新しい技術情報が掲載されています。変更が行われたにもかかわらず、変更バーが付いていない箇所もある可能性があります。重要な変更内容は以下のとおりです。

- Content Manager OnDemand for iSeries (OnDemand) では、バージョン 5 リリース 1 において、OnDemand Common Server と呼ばれるサーバーが新たに実装されました。Common Server では、OnDemand のユーザーと管理者に対し、強化された索引付け、検索、表示、セキュリティ、PDF、および Web 対応機能を提供します。スプール・ファイル保存を実装した現行の OnDemand をご使用のお客様は、AnyStore 機能または既存の Server 機能の有無に関わらず、「Content Manager OnDemand for iSeries Common Server 計画とインストール」の付録 A に記載されている手順に従って、新しい Common Server にマイグレーションできるようにになりました。本書の全体を通じて、スプール・ファイル・アーカイブのデータのマイグレーションについて言及している箇所では、AnyStore がインストールされている場合には AnyStore データも含まれることに注意してください。
- 「Content Manager OnDemand for iSeries Common Server 索引付けリファレンス」資料には、OS/400 Indexer のサポートする機能に関連する内容が大幅に追加されました。これらの追加された内容には、複数キー索引、トランザクション・フィールド、テキスト検索フィールド、AFP オーバーレイ付きの SCS スプール・ファイル、およびアプリケーション・フィールドのマスクの定義に関するトピックが含まれています。
- Content Manager OnDemand for iSeries は、新たに iSeries のサポートする Plasmon 光ディスク・ライブラリーに対応しました。
- Start Archived Storage Management for OnDemand (STRASMOND) コマンドでは、コマンドの使用を簡素化するために、2 つのコマンド・パラメーターが除去されました。詳しくは、「Content Manager OnDemand for iSeries Common Server 管理ガイド」の付録 A を参照してください。
- OS/400 では、オリジナルの HTTP サーバーのサポートを終了しました。これに伴い、Content Manager OnDemand Web Enablement Kit (ODWEK) でも、オリジナルの HTTP サーバーのサポートを終了しました。現在、ODWEK では Apache HTTP サーバーのみを、HTTP サーバーとしてサポートしています。

第 1 章 インストール要件

IBM Content Manager OnDemand for iSeries、バージョン 5 リリース 3 (OnDemand) は、大量データの保管を可能にするソフトウェア・アプリケーションです。ディスク、光ディスク、またはテープといったメディアに保管されたデータを選択的に検索することもできます。

データは、ディスクから光ディスクに、またはディスクからテープに自動的に移され、あとでそのデータを検索することができます。これにより、長期または短期の保管および検索にコストの面で最も有利なメディアを選択することができます。また、データが不要になった場合に、そのデータを除去するオプションがあります。

本章では、OnDemand のハードウェアおよびソフトウェアの要件をリストし、次の章で、インストール、検査、および機能テストについて詳細に説明します。

15 ページの『第 3 章 OnDemand の概要』以降の章では、OnDemand 管理担当者および一般ユーザーの役割について説明しています。

セキュリティ

OS/400 の標準のセキュリティに、OnDemand のアクセス許可を追加して結合することができます。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries: 管理ガイド*」(SD88-5029) の第 1 章では、報告書に対するセキュリティ方針の確立や維持に使用することのできる、「報告書管理メニュー」の 4 つのオプションについて説明しています。この章にはスプール・ファイル・アーカイブのセキュリティの詳細について重要な説明が記載されていますので、OnDemand 報告書管理者は必ず読んで理解してください。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理の手引き*」の第 2、3、および 4 章では、それぞれ、オブジェクト・アーカイブ、レコード・アーカイブ、および AnyStore の場合のセキュリティ・オプションについて説明しています。

OnDemand for iSeries ハードウェア要件

OnDemand をインストールするには、以下が必要です。

- PowerPC® テクノロジー搭載の IBM AS/400® または iSeries プロセッサ
- 5250 タイプの端末、または適切に構成されたエミュレーションを実行するインテリジェント・ワークステーション

オプションのハードウェア

- iSeries 対応光ディスク・ライブラリー

OnDemand for iSeries ソフトウェア要件

OnDemand の当バージョンをサポートするには、OS/400 のバージョン 5 リリース 3 をインストールしておく必要があります。

オプションのソフトウェア

以下を使用することもできます。

- FAX Support for iSeries
- Advanced Function Printing™ Utilities for AS/400
- Query for iSeries、または DB2® Query Manager および SQL Development Kit for iSeries
- Backup Recovery and Media Services for iSeries (IBM テープ・ライブラリーを使用する場合は、強くお勧めします)

スプール・ファイル・アーカイブ機能によって高機能印刷™ (AFP™) 報告書を処理する場合、再印刷するには OS/400 の印刷サービス™ (PSF) 機能も必要になります。

これらのオプションのソフトウェア・プロダクトは、使用している OS/400 オペレーティング・システムのリリース・レベルと互換性がなければなりません。

OnDemand for iSeries 印刷処理要件

AFP で解析済みの出力を印刷するには、高機能印刷が使用可能なプリンターが必要です。他のすべての OnDemand 印刷は、iSeries に接続されたどのようなプリンターでも行うことができます。

OnDemand for iSeries 記憶域要件

OnDemand をインストールするには、OnDemand ライブラリー用に以下のスペースがディスク上に必要です。

- ベース - 13.5 メガバイト (その他の機能用に必要)
- スプール・ファイル・アーカイブ - 24.5 メガバイト
- オブジェクト・アーカイブ - 3.4 メガバイト
- AnyStore - 1.2 メガバイト
- サーバー・サポート - 3.8 メガバイト

必要なアプリケーション・データ記憶域の容量は、保管したい情報の量、項目のサイズ、およびユーザーの保存要件に応じて異なります。

OnDemand クライアント・ワークステーション要件

ワークステーションの要件およびインストールの説明については、「*IBM Content Manager OnDemand ユーザーズ・ガイド*」(SC88-8839) を参照してください。この資料の PDF 版は、Web: <http://www.ibm.com/software/data/ondemand/400> (この資料を見つけるには、ライブラリーへのリンクをたどる) からダウンロードできます。この資料のハードコピーを注文するには、IBM 担当者に連絡してください。

IBM から配布

インストール・パッケージは、以下により構成されています。

- 以下を含む OnDemand 配布メディア。
 - オブジェクト・ライブラリー
 - サンプル・データ
 - サンプル・ユーザー出口プログラムのソース・コード
- *LPS: OnDemand for AS/400*
- *IBM Content Manager OnDemand for iSeries: インストール・ガイド*

OnDemand に役立つもう一つの参考資料である「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」については、IBM 担当員にご連絡ください。

第 2 章 OnDemand のインストール

この章では、OnDemand のすべての機能に関するインストール手順について説明しています。インストールの開始に先立って、1 ページの『第 1 章 インストール要件』にリストされている必須のハードウェアおよびソフトウェアのインストールおよびテストが完了していることを確認してください。

OnDemand のインストール手順

OnDemand をインストールするには、「OS/400 および関連ソフトウェアのインストール、アップグレードおよび削除, SD88-5002-07」の説明に従ってください。

OnDemand バージョン 5 リリース 3 のライセンス・プログラム番号は、**5722RD1** です。OnDemand の個々の機能 (別々にインストール) は、以下のとおりです。

- ***BASE** 基本サポート (他の機能すべての前提になります)
- **1** スプール・ファイル・アーカイブ
- **2** オブジェクト・アーカイブ
- **4** AnyStore
- **5** サーバー機能

オプション 10、11、および 12 も 5722-RD1 で提供される機能ですが、本書には適用されません。インストールの詳細は、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries Common Server: 計画とインストール*」(SC88-4008) を参照してください。

OnDemand のインストールには、「ライセンス・プログラムの処理」メニュー (GO LICPGM) から「ライセンス・プログラムのインストール」オプションを使用することをお勧めします。「ライセンス・プログラムのインストール」画面で、インストールしたい OnDemand オプションをすべて選択してください。

注: 「ライセンス・プログラムのインストール」画面から、オプションの追加のため 1 と入力します。次に、上記のリストから注文した機能それぞれ (*BASE を入力した後、オプション 1、2、4、または 5 というように) を入力します。オプション 5 をインストールする場合、Web

(<ftp://service.software.ibm.com/software/ondemand/fixes/>) の IBM サービスから最新のクライアント・ソフトウェアをダウンロードしてください。

他の何らかの方法で **OnDemand** をインストールした場合は、**OnDemand** を使用しようとする時点でエラーが生じる可能性があります。

IBM では、このライセンス・プログラムが正常にインストールされた後で、OnDemand の使用可能なすべての PTF を注文し、ロードおよび適用することをお勧めします。OnDemand バージョン 5 リリース 3 の PTF の完全なリストについては、情報 APAR II13680 を参照してください。この情報 APAR は、SNDPTFORD コマンド (PTF 番号 II13680 を指定) を使用して、電子ファイルで注文できます。PTF のカバー・レターを必ず読み、すべての特別な指示に従ってください。

スプール・ファイル・アーカイブ用の QALWUSRDMN システム値

スプール・ファイルのアーカイブを適切に行うには、ユーザー・ドメイン・オブジェクトが QRDARS ライブラリーに保管されるように QALWUSRDMN システム値を設定する必要があります。QALWUSRDMN のデフォルト値は *ALL です。これは、システム上のどのライブラリーにでもユーザー・ドメイン・オブジェクトを保管できることを意味します。システム管理者がこの値を変更した場合は、システム値 QALWUSRDMN に QRDARS ライブラリーを追加するよう、システム管理者に依頼してください。

OnDemand クライアントのインストール

Windows® ワークステーションでの OnDemand クライアントのインストールについては、「IBM Content Manager OnDemand ユーザーズ・ガイド」(SC88-8839) を参照してください。

インストールの検査

OnDemand をインストールし、**QSECOFR** としてサインオンした状態にします。含まれるサンプル・データを使用して、スプール・ファイル・アーカイブ、オブジェクト・アーカイブ、およびレコード・アーカイブの各機能を (必要に応じて) 活動状態にしてください。(AnyStore にはインストール検査テストは不要です。) 機能ごとに示されている手順に従って、それらの機能をテストします。次に、スプール・ファイル・アーカイブ機能をインストールする場合には、8 ページの『OnDemand スプール・ファイル・アーカイブ機能の機能テスト』の項の機能テストを行います。

インストールまたは検査の過程でエラーが発生した場合は、インストール・システムの OS/400 ジョブ・ログを検討してください。問題の解決方法が不明な場合には、IBM 営業担当員に連絡してください。

スプール・ファイル・アーカイブ機能

このテストを行うと、後の機能テストの過程で検索する 3 つのサンプル報告書が取り込まれます。

- サンプル 1
 - **QSECOFR** としてサインオンした状態のまま、OS/400 コマンド行に **STRCDSRDAR** と入力する。**F4** を押す。
 - 「報告書名」フィールドに **CHECKSTMTS** と入力する。
 - 「入力ファイル」フィールドに **CHECKSTMTS** と入力する。
 - 「ライブラリー」フィールドに **QRDARS** と入力する。**Enter** キーを押す。
- サンプル 2
 - **QSECOFR** としてサインオンした状態のまま、OS/400 コマンド行に **STRCDSRDAR** と入力する。**F4** を押す。
 - 「報告書名」フィールドに **TSTINV** と入力する。
 - 「入力ファイル」フィールドに **TSTINV** と入力する。
 - 「ライブラリー」フィールドに **QRDARS** と入力する。**Enter** キーを押す。

- サンプル 3
 - **QSECOFR** としてサインオンした状態のまま、OS/400 コマンド行に **STRCDSRDAR** と入力する。**F4** を押す。
 - 「報告書名」フィールドに **TSTSEQ** と入力する。
 - 「入力ファイル」フィールドに **TSTSEQ** と入力する。
 - 「ライブラリー」フィールドに **QRDARS** と入力する。**Enter** キーを押す。

スプール・ファイル・アーカイブ機能の機能テストを行うには、8 ページの『OnDemand スプール・ファイル・アーカイブ機能の機能テスト』に進んでください。

オブジェクト・アーカイブ機能

このテストでは、オブジェクト・アーカイブ機能が正しくインストールされているかどうかを検査します。

- OS/400 コマンド行で、**STRARCRDAR** と入力する。**F4** を押す。
- 「**ONDEMAND** を使用した保存の開始」のプロンプトが現れた時点で、**F12** を押してコマンド行の画面に戻る。

クライアント/サーバー機能

この機能は、サーバー上で実行されているジョブを開始または終了できるかどうかを検証します。**QSECOFR** としてサインオンしたまま、以下のようにします。

- **STRTCPSVR *ONDMD** を入力し、**Enter** キーを押す。
- コマンド行で **WRKACTJOB JOB(QRLG*)** と入力し、**Enter** キーを押す。その結果、活動ジョブとして 4 つのジョブがリストされます。最初にすべてリストされていない場合は、**F5** キーを使用して最新表示してください。**QRLGMGR** という名前のジョブが 1 つ、**QRLGSVR** という名前のジョブが 3 つなければなりません。これら 4 つのジョブが表示されたら、次のステップに進んでください。
- コマンド行で **ENDTCPSVR *ONDMD** と入力し、**Enter** キーを押す。
- しばらくして、**F5** キーで画面を最新表示する。4 つのジョブが終了するのを確認してください。すべてのジョブが終了するまで、最新表示キー (**F5**) を押し続けます。

インストール検査の完了

これで、OnDemand のインストール検査は完了です。

スプール・ファイル・アーカイブ機能をインストールした場合には、次の 8 ページの『OnDemand スプール・ファイル・アーカイブ機能の機能テスト』の項で説明する機能テストを行うことをお勧めします。

OnDemand スプール・ファイル・アーカイブ機能の機能テスト

この項では、OnDemand 対話式スプール・ファイル・アーカイブ・セッションに基づいて説明しています。サインオンおよびサインオフを行うことができ、さらに例を使用して、報告書の選択および検索機能が正しくインストールされ、正しく作動することを検査することができます。サンプル・データには、インストール検査の過程で取り込まれた当座預金の貸借報告書が含まれています。

OnDemand のテスト

QSECOFR としてサインオンしている状態で、テストの開始に先立って、以下を行います。

- ライブラリー・リストを表示するために、**DSPLIBL** と入力する。

QSYS2 がライブラリー・リストにない場合には、次のコマンドを入力してライブラリー・リストに追加します。

ADDLIBL QSYS2

- OS/400 コマンド行で、**FNDRPTRDAR** と入力する。
- Enter** キーを押し、図 1 の画面を表示する。

保管されている報告書の検索

サンプルの当座預金貸借報告書の検索により、OnDemand スプール・ファイル・アーカイブ機能をテストすることができます。

報告書検索の指定 ONDM400
98/01/04 14:27:53

```
000      DDDD      D
0 0      D  D      D
0 0 NNNN D  D  EEE  MMM MM  AAAA NNNN  DDDD
0 0 N  ND  DE  E  M  M  MA  AN  ND  D
0 0 N  ND  DEEEEE M  M  MA  AN  ND  D
0 0 N  ND  DE    M  M  MA  AN  ND  D
000 N  N DDDD  EEE  M  M  M  AAAA N  N  DDDD
```

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書 **CHECKSTMTS** 名前, 総称*, リストは F4 キー
-または-
報告書グループ _____ 名前, 総称*, リストは F4 キー

日付の範囲
始め _____ YYYYMMDD
終わり _____ YYYYMMDD

F3= 終了 F4= プロンプト F12=取り消し

図 1. 報告書検索の指定

この画面により、当座預金貸借報告書などの保存された報告書を検索することができます。このテストにおけるユーザーの要求は、OnDemand を使用して保存されたもののうち、名前が **CHECKSTMTS** であるすべての報告書に対して行われます。

- 「報告書」フィールドに **CHECKSTMTS** と入力する。**Enter** キーを押す。

サンプルには当座預金貸借報告書が 1 つだけ含まれています。報告書が複数ある場合には、入力した報告書名に一致する報告書 (通常、異なる日付を持つ) がすべて、図 2 の画面に表示されます。

報告書結果の選択						ONDMD400
オプションを入力して、実行キーを押してください。						98/01/04 14:29:08
1= 選択						
OPT	報告書	報告書日付	順序 番号	位置	テキスト	
	CHECKSTMTS	1990-12-19	001	DISK	Check Statements	
終わり						
F3= 終了 F12=取り消し						

図 2. 報告書結果の選択

このリストから特定の当座預金貸借報告書を選択して、元のスプール・ファイル内の個々の報告書を表示することができます。これは、次のように行います。

- 表示したい報告書の前の「OPT」フィールドに **1** を入力して、**Enter キー**を押し、図 3 の画面を表示する。

文書検索の指定			ONDMD400
			98/01/04 14:40:45
報告書	CHECKSTMTS	
報告書タイプ	DOC	
選択項目を入力して、実行キーを押してください。			
キーの値 :		必須のキー長	
1. Account Number	... 251* _____	1 - 9.	
2. SSN / Tax ID _____	1 - 11.	
3. Cust Name _____	1 - 12.	
すべての報告書順序番号の検索 Y	Y=YES	
		N=NO	
報告書順序番号 001	1-999	
日付の範囲 :			
始め 19901219	YYYYMMDD	
終わり 19901219	YYYYMMDD	
F3= 終了 F6= グループの検索 F12=取り消し			

図 3. 文書検索の指定

「文書検索の指定」画面の任意の検索キーを使用して、特定の項目 (例: 当座預金貸借報告書) を選択することができます。

- 「Account Number」フィールドに **251*** と入力する。

注: アスタリスクは部分検索を示し、251 で始まるすべての当座預金貸借報告書をアーカイブから検索するように OnDemand に要求します。

- **Enter** キーを押し、図 4 の画面を表示する。

文書の処理					ONDMD400
報告書 : CHECKSTMTS Check Statements (OnDemand Sample)					98/01/24 14:10:41
オプションを入力して、実行キーを押してください。					
5= 表示 6= 印刷 7= ファクシミリ A= 注釈					
OPT	日付	Account Number	SSN / Tax ID	Cust Name	Ending Balance
5	19901219	251000022	255-77-4993	KATIE ALLEN \$	0.48
	19901219	251000055	236-55-3387	DIANNE WIEST \$	5,671.46
	19901219	251000261	253-26-8119	JESSICA LANG \$	1,186.05
	19901219	251000287	230-88-4523	FORREST GUMP \$	1,416.33
	19901219	251000352	225-88-9441	GRETA GARBO \$	3,777.69
	19901219	251000394	421-33-1886	MARK MIKEAL \$	1,344.67
	19901219	251000469	409-33-2298	JIM WHITMIRE \$	21,016.47
	19901219	251000527	236-97-3309	KAREN ROSS \$	56.84
	19901219	251000535	236-22-1198	JEFF WHARTON \$	4,941.67
	19901219	251000642	551-78-8837	JEFF LONGWAY \$	5,356.19
	19901219	251000709	599-44-9007	CAROL ALLEN \$	8,770.45
					続く...
F3= 終了 F12=取り消し					

図 4. 文書の処理

先頭が 251 で始まるすべての当座預金貸借報告書を要求したので、会計番号が該当の数値で始まる得意先すべてが、検索結果のリストに表示されます。(より多くのキー、または会計番号全体をキーとして使用すると、検索を限定できるので、より早く検索結果のリストを表示することができます。)

「SSN / Tax ID」および「Cust Name」フィールドに加えて、報告書からの他のデータ項目 (「Ending Balance」) が表示されます。表示フィールドと呼ばれるこのフィールドは、報告書についての追加情報を提供します。

Account Number 251000022 の項目を見ることにします。この得意先の当座預金の実際の情報を表示するには、以下を行います。

- 該当の文書の前の「OPT」フィールドに **5** を入力して、**Enter** キーを押す。検索した文書の左上の部分が 11 ページの図 5 に示すように表示されます。

ATTN キーのこのテストでは、印刷機能のみを使用します。(ファクシミリ送信および注釈の機能のテストは、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*, SD88-5029-07」の第 8 章の手順に従って行うことができます。)

Enter キーを押すと、図 7 の画面が表示されます。

文書の印刷		ONDM400
文書のページ数 :	1	98/01/04 15:09:05
選択項目を入力して、実行キーを押してください。		
印刷装置名	PRT01 _____	名前
-または-		
出力待ち行列	_____	名前
ライブラリー	*LIBL _____	名前, *LIBL
コピー部数	1 _____	1-999
ページ範囲 :		
開始ページ	1 _____	1-9999999999
終了ページ	*END _____	1-9999999999, *END
F3= 終了 F12=取り消し		

図 7. 文書の印刷

選択項目を入力して、**Enter** キーを押します。(詳細については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 5 章を参照してください。)

これで、会計番号 251000022 のサンプル報告書を印刷する **ATTN** キーのテストは完了です。

機能テストの完了

インストール・テストを終了した時点で、**F12** を押します。これで、直前の画面に戻ります。各画面で **F12** を押すことにより終了処置を続けるか、または他の機能にアクセスすることができます。

- OS/400 を完全にサインオフするには、OS/400 コマンド行で、**SIGNOFF** と入力する。
- **Enter** キーを押す。

問題判別支援

回復できないエラーによって OnDemand が **FILESTAT** エラー・コードを出した場合は、以下の表を問題の解決のために使用してください。これらのコードの詳細なリストについては、「*AS/400 V3 言語: COBOL/400 解説書*, SC88-5202-00」を参照してください。

表 1. 一般的な FILESTAT コード:

FILESTAT コード	意味
23	レコードが見つかりません
35	ファイルが見つかりません
39	レベル検査
91	認可されていません
9D	レコードがロックされました
9P	コミットが失敗しました

FILESTAT=9P を受け取った場合、十分な権限でサインオンしている間に、コマンド行から次のコマンドを出してください。

CALL QRLCSTRJ PARM(xxx)

ここで、**xxx** は、稼働している OnDemand 機能に対応します。指定可能な値 (大文字 で入力する) は、次のとおりです。

- RLC - 基本機能
- RLR - スプール・ファイル・アーカイブ機能
- RLO - オブジェクト・アーカイブ機能

第 3 章 OnDemand の概要

OnDemand for iSeries は、ソフトウェア・アプリケーションです。このアプリケーションを使用すると、最先端のメディアを選択して、マイクロフィッシュ、紙による保管、およびその他の iSeries データ記憶域オプションと置き換えることができます。ディスク、光ディスク、または磁気テープ・メディアの使用により、以下が可能になります。

- 大量の印刷データ (コード化データ) の保管、検索、表示、印刷、またはファクシミリ送信。
- その他の各種の非印刷データ・タイプの保管および検索。

この章では、ユーザーが OnDemand についてより一層理解を深めることができるように、OnDemand の各機能の概要、理解する必要がある用語、および使用される基本画面について説明しています。

OnDemand の機能

OnDemand には、以下の 5 つのオプション機能があります。

- **スプール・ファイル・アーカイブ**。この機能は、スプール印刷データの処理を自動化します。
- **オブジェクト・アーカイブ**。この機能は、各種の OS/400 オブジェクトの保存および検索機能を提供します。
- **AnyStore**。これは、さまざまなデータ・タイプを保管および検索するためのアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を提供します。これらのデータ・タイプには PC ファイル (最も一般的に使用されています) が含まれていますが、PC ファイルに限定されるわけではありません。
- **サーバー・サポート**。スプール・ファイル・アーカイブまたは AnyStore で保存されたデータの検索および表示のクライアント/サーバーの代替方法を提供します。

ここでは、これらの機能の概要について説明します。詳細については、本書の該当する章を参照してください。

スプール・ファイル・アーカイブ

スプール印刷データ作業 (例: 報告書の取り込み、セグメンテーション、圧縮、索引付け、および記憶域マイグレーション管理) の自動化には、この機能を使用します。

コマンドまたはオンライン・メニューを使用して、報告書の選択されたページを迅速に表示または印刷することができます。報告書全体を印刷し直すこともできます。報告書の作成時に検索基準を決定するので、検索が選択されたデータに対してのみ行われるようにし、不必要なデータあるいは機密性の高いデータの検索が行われないようにすることができます。

強力な圧縮機能により、有効な記憶域が増大します。マイグレーション管理では、データを光ディスクまたはテープ・メディアに自動的に移すことにより、有効な記憶域スペースがさらに拡張されます。

OnDemand では、独自の磁気テープ管理システム、または Backup Recovery and Media Services for iSeries(BRMS) を使用できます。¹

OS/400 印刷およびファクシミリ機能を使用すれば、OnDemand は、高機能印刷機能を含め、オリジナルの品質の出力でファクシミリを印刷または送信することができます。

この機能についての詳細は、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章で説明しています。

オブジェクト・アーカイブ

この機能は、オブジェクトをディスク、光ディスク、またはテープ・メディアに保存し、保存されたオブジェクトの複数の世代を管理します。OS/400 オブジェクト(データベース・ファイル、プログラム・ソース・ファイル、またはプログラムなど)を、コスト的に有利な光ディスクまたは磁気テープ・メディアに圧縮フォーマットで保管することができます。OnDemand は、これらの圧縮されたオブジェクトを光ディスクまたはテープ・メディアから検索することができます。

この機能についての詳細は、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 2 章で説明しています。

AnyStore

この機能によって、さまざまなデータ・タイプ(ワークステーション・ファイルなど)を保管および検索することができます。また、この機能によって、OnDemand の強力な記憶管理機能は代表的なスプール・ファイル、オブジェクト、または他の OnDemand 機能が取り扱うデータ・レコード環境上のデータ、およびそれらの範囲を超えるデータを処理することができます。OnDemand の他の機能と同様に、AnyStore の大きな利点は、ネットワーク上に存在するさまざまなデータ・タイプについて、光ディスクまたはテープ・メディアをディスクと同様に使用できることです。

OnDemand は、アーカイブおよび検索アプリケーションを開発したり、アーカイブ・データにアクセスする必要がある既存のアプリケーションを拡張したりするためのアプリケーション・プログラミング・インターフェース(API)を提供します。多くの AnyStore の管理機能では、定義およびマイグレーション特性を含め、スプール・ファイル・アーカイブの記憶管理コマンドおよびメニューを使用します。

この機能についての詳細は、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 4 章で説明しています。

1. 磁気テープへのデータ保存およびバックアップについては、「*Backup Recovery and Media Services for iSeries*」を参照してください。

クライアント/サーバー

このサポートにより、OnDemand エンド・ユーザーは、スプール・ファイルの保存および AnyStore データの完全なクライアント/サーバー検索を実行することができます。このサポートについての詳細は、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 5 章で説明しています。

データの検索

項目の保管時に定義される検索基準を使用して、保存された項目を検索することができます。特定の報告書、保存されたオブジェクト、あるいはデータ・レコードを検索することができます。

データの印刷

OnDemand により、対話式またはバッチでも、報告書全体または報告書の特定のページを印刷することができます。ファクシミリを使用可能にするソフトウェアを使用して、ファクシミリを送信することもできます。

スプール・ファイル・アーカイブ機能のこの部分についての詳細は、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章で説明しています。

システム・セキュリティー

OnDemand には、標準の OS/400 セキュリティーのほかにも、データ保護の方法がいくつか用意されています。スプール・ファイル・アーカイブ機能においては、次のいずれかのアプリケーションまたは報告書に対して選択的にユーザー権限を与えることにより、データへのアクセスを限定することができます。

- OnDemand アプリケーション。
- 個々の報告書。
- 報告書のグループ。
- 報告書内の個々のキー値。

「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章では、報告書に対するセキュリティーの方針確立および維持に使用できる 4 つのオプションについて説明しています。また、スプール・ファイル・アーカイブのセキュリティーの仕組みについて詳細に説明しています。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 2 章と第 3 章では、それぞれオブジェクト・アーカイブの場合および AnyStore アーカイブの場合のセキュリティー・オプションについて説明しています。

光ディスクおよびテープ・メディアの管理

データの保存に OnDemand を使用する利点の 1 つは、データの保管または検索に際して、ユーザーが特定の光ディスク・ボリュームまたはテープ・ボリュームを指定する必要がないことです。OnDemand がユーザーに代わってこれを管理します。ユーザーは同じ記憶域要件（保存期間や保存場所）を持つ報告書およびオブジェクトのマイグレーション方針を定義します。次に、各マイグレーション方針はこれらの報告書またはオブジェクトに使用できる光ディスクまたはテープ・ボリュームのグ

ループを参照します。OnDemand がデータを保管する際に、書き込み先のボリュームについて認識しています。同様に、OnDemand は、ユーザーの保管データを検索する際に、読み取るべき特定の光ディスクまたはテープ・ボリュームについて認識しています。

OnDemand に関する用語および定義

先に進む前に、前もって本書で使用される用語を理解することができます。用語を以下に示します。

絶対処理

これは、報告書日付、セグメンテーション、または索引情報が、各報告書セグメントの同じ行の同じ欄に一貫して位置付けられる場合に使用される探索方法です。

アプリケーション・プログラム・インターフェース (API)

IBM が提供するプログラムまたはコマンドで、ソフトウェア・プロダクトの機能を拡張します。

BRMS オプションで、テープとの間のデータ転送を行う場合に Backup Recovery and Media Services for iSeries (BRMS) を使用することができます。それ以外には、OnDemand を使用して OnDemand テープを管理します。

バンドル

1 つのスパール・ファイルに複数のまったく異なる OnDemand 報告書が入っている場合、OnDemand は、アンバンドル報告書定義を定義することによって、バンドルを別々の報告書に分割し個別に保管することができます (アンバンドル報告書 を参照)。

圧縮 圧縮によって、より少ないスペースにより多くのデータを保管できるように、データからブランクおよび反復ストリングを除去します。データの性質に応じて、圧縮率は 2 対 1 から 17 対 1 またはそれ以上になることがあります。

表示フィールド

キーと同様に、表示フィールドは表示、印刷、または FAX したい文書の選択リストに現れます。キーとは異なり、表示フィールドにより探索することはできません。これらは、情報の提供だけを目的としたものです。

文書報告書

これらは、固有の、個々に検索可能な項目 (例: 当座預金貸借報告書や送り状など) にセグメント化できる報告書です。このタイプの報告書の略語は、**DOC** です。

ヒット・リスト

指定された検索値と一致する文書のリスト。

索引 索引は、キーとも呼ばれ、検索に使用されます。報告書名 と日付 の 2 つのフィールドは必須であり、他のフィールドは最大 5 つまで使用することができます。

キー キーは、索引とも呼ばれ、検索に使用されます。報告書名 と日付 の 2 つのフィールドは必須であり、他のフィールドは最大 5 つまで使用することができます。

マイグレーション

これは、異なる保管メディアへのデータの移動 (例: ディスクから光ディスクへの報告書の移動など) です。

マイグレーション方針名

マイグレーション方針名は、項目に割り当てられている項目のマイグレーションおよび満了の特性を記述します。OnDemand では、報告書マイグレーション方針 (スプール・ファイル・アーカイブおよび AnyStore の場合) およびオブジェクト・マイグレーション方針 (オブジェクト・アーカイブの場合) に関する定義を行います。

無索引報告書

これらの報告書には、固有のキーも論理範囲索引もありません。このタイプの報告書の略語は、**NODX** です。

オブジェクト

これは、OS/400 エンティティ (例: ファイル、プログラム、またはコマンドなど) に関する共通用語です。

オブジェクト管理サイクル

これにより、記憶域階層に基づくアーカイブ・オブジェクトまたは一連のアーカイブ・オブジェクトの移動 (ディスクから光ディスクへ、またはディスクからテープへのアーカイブ・オブジェクトの移動) を管理します。

ページ報告書

これらの報告書は、報告書内のデータのソート順序に基づく値の範囲によって論理的に索引付けすることができます。このタイプの報告書の略語は、**PAGE** です。

レコード

これはデータ・ファイルの 1 つの項目です。OnDemand 報告書では、印刷データの 1 行を表します。

参照ストリング

参照ストリング値は、報告書上の既知の列から始まる 1 文字または複数文字からなるストリングです。これは、索引 (キー)、セグメンテーション値、または報告書日付が各ページの同一行に現れない場合、これらのデータの位置を指定するのに使用されます。

報告書オカレンス

報告書を OnDemand に保管するたびに、報告書オカレンスを作成することになります。たとえば、送り状を 1 日に 3 回実行して、OnDemand にそれぞれ保管すると、その日について 3 つの送り状のオカレンスが作成されます。ある特定の日の報告書には、それぞれ固有の順序番号が付けられます。OnDemand においては、報告書オカレンスは、しばしば **YYYYMMDD.SEQ** (報告書の日付と順序番号) の形式を使った名前で作成されます。

報告書オーバーレイ

文字ベースの画面オーバーレイを作成することができます。この画面オーバーレイは、表示の時点でスプール・データに組み合わされます。データの印刷またはファクシミリ送信を行う場合にオーバーレイを組み込むことができます。報告書オーバーレイは、AFP オーバーレイと同じではありません。

報告書管理サイクル

これにより、記憶域階層に基づくアーカイブ報告書の移動（ディスクから光ディスクへ、またはディスクからテープへのアーカイブ報告書の移動）を管理します。

セグメンテーション

これにより、あとで個々に検索することができる個別項目（例：個々の送り状）にスプール・ファイルを分割します。

記憶域グループ

報告書、オブジェクト、またはデータ・レコードなど、同様の特性を共有するものごとに、別々の光ディスク・ボリュームに保管されるものに対して使用します。

アンバンドル (分割) 報告書

1 つのスプール・ファイルに複数のまったく異なる報告書が含まれている場合、そのスプール・ファイルは、報告書のバンドルと呼ばれます（バンドルを参照）。OnDemand は、アンバンドル報告書の定義を使用して、そのバンドルを個々の報告書に分けて、それらを別々に保管します。このタイプの報告書の略語は、**UBND** です。

ヘルプの入手

画面で実行できる作業について説明する一般ヘルプ、または特定の入力フィールドに関するヘルプを表示することができます。

画面全体のヘルプ

カーソルを画面のタイトル域に移して、**F1** を押します。OnDemand は、その画面の目的を表示します。図 8 の例は、ヘルプを要求している画面を示しています。

報告書検索の指定 ONDM400
98/01/24 14:11:55

```
000      DDDD      D
0 0      D  D      D
0 0 NNNN D  D EEE  MMM MM  AAAA NNNN  DDDD
0 0 N  ND  DE  EM  MA  AN  ND  D
0 0 N  ND  DEEEEE M  MA  AN  ND  D
0 0 N  ND  DE  M  MA  AN  ND  D
000 N  N DDDD  EEE  M  MA  AN  ND  D
```

選択項目を入力して、実行キーを押してください。

報告書	名前, 総称*, リストは F4 キー
-または-	
報告書グループ	名前, 総称*, リストは F4 キー
日付の範囲	
始め	YYYYMMDD
終わり	YYYYMMDD

F3= 終了 F4= プロンプト F12= 取り消し

図 8. 報告書検索の指定

図9 は、画面全体のヘルプを要求した結果です。

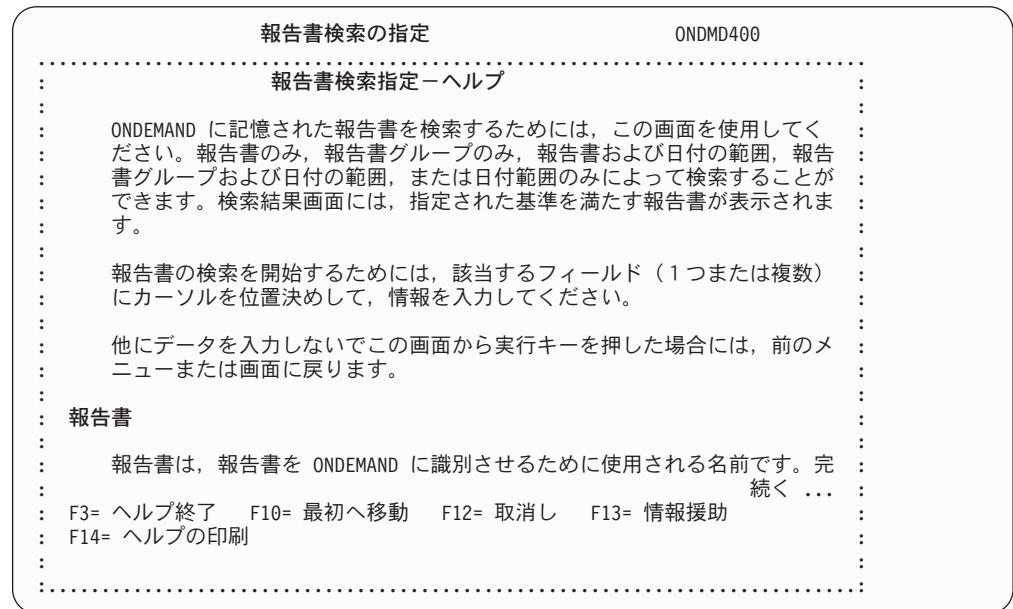


図9. 報告書検索の指定 - ヘルプ

フィールドのヘルプ

OnDemand の画面には、ユーザーが情報を入力するフィールドに下線が表示されます。下線の長さの分だけの文字を入力することができます。フィールドおよび有効な選択項目に関するヘルプを表示するには、該当のフィールドにカーソルを移して **F1** を押します。

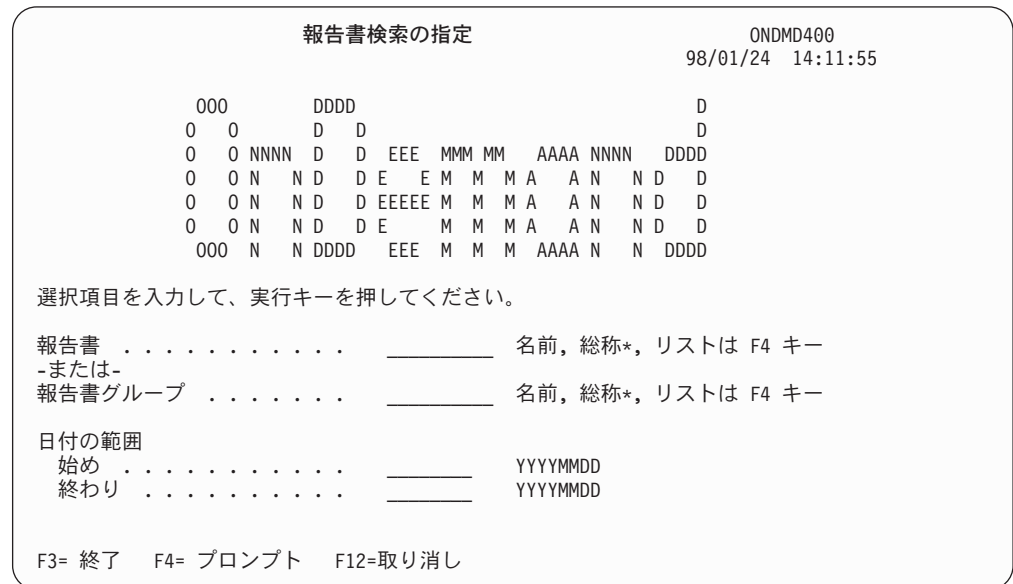


図10. 報告書検索の指定

22 ページの図 11 の挿入画面に類似した挿入画面が表示されます。

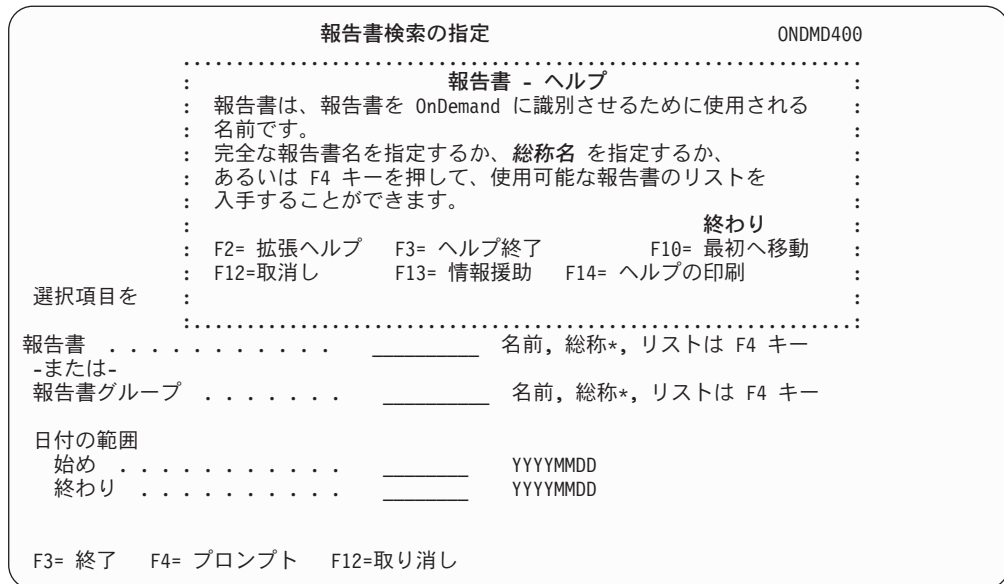


図 11. アクション・フィールド・ヘルプ

ヘルプ画面を終了して使用している画面に戻るには、**F3** または **F12** を押します。

OnDemand のメイン・メニュー

以下は、OnDemand のメイン・メニューです。以後の章では、各オプションおよびそれらのオプションを使用する各機能について説明します。(メニュー・オプションには、それらが属する特定の機能が購入されていない場合には表示されないオプションがあります。)

このメニューにアクセスするには、任意の OS/400 コマンド行から、**GO ONDEMAND** または **GO RDARS** と入力します。

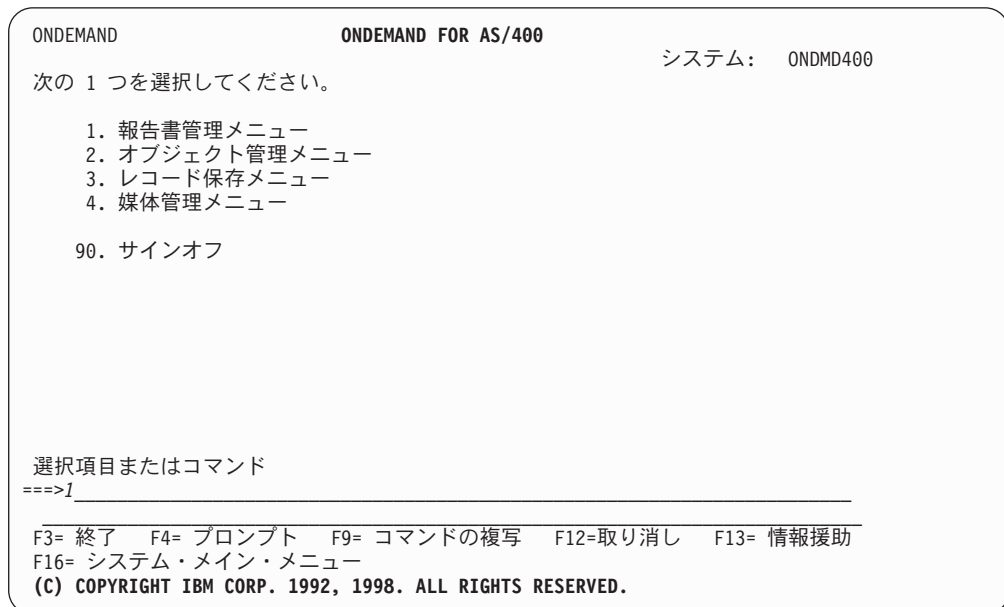


図 12. OnDemand for iSeries メイン・メニュー

高速パス・コマンドの使用

高速パス・コマンドを使用して、メイン・メニューをスキップして、4 つのメイン・メニュー・オプションのいずれか、または OnDemand のすべてのコマンドのリストに直接アクセスすることができます。

OS/400 コマンド行で次のように入力します。

GO RDARSRPT

報告書管理メニューにアクセスする場合。

GO RDARSOBJ

オブジェクト管理メニューにアクセスする場合。

GO RDARSRLA

レコード・アーカイブ・メニューの場合。

GO RDARSM

メディア管理メニューにアクセスする場合。

GO CMDOND または GO CMDRDAR

OnDemand のすべてのコマンドのリストにアクセスする場合。

第 4 章 OnDemand の業務環境の定義

システム管理担当者は、現在の保管および検索方法から OnDemand への円滑なマイグレーションを行う責任があります。この章では、マイグレーション作業の計画および編成に役立つ保存および検索処理の各コンポーネントについて説明します。また、それらのコンポーネントを最も効果的に使用するためのヒントも示します。

各トピックには、項目ごとに使用するメニュー、画面、およびフィールドを参照している部分があります。

業務方針の確立

経営マネージメントの業務目標への適合およびエンド・ユーザー間の整合性を確実なものにするために、保存の要件をリストする正規の方針を確立することができます。この方針には、検索の要件、項目の検索頻度、項目を長期保管域に移す時期、およびそれらの保存時の法的な要件を含めることができます。

この章の各トピックをお読みになる際に、計画の概要を決めることをお勧めします。プログラマー (アプリケーション・プログラムの作成および保守を行う)、エンド・ユーザー (得意先に応答する)、およびマネージメントと、計画について検討してください。

OnDemand を使用すると、確立済みの方針が各プロセスの監視に使用できる有用な編成ツールになることが分かります。業務内容の変化に応じて、活用中の文書として OnDemand を更新することができます。また、エンド・ユーザーに対する教育用のツール、および災害時回復の援助機能の一部として使用することもできます。

ユーザー指針の設計

エンド・ユーザーは、OnDemand による保存のためのキー、セグメンテーション、および他の実動用の値を決定するときに大きな助けとなります。たとえば、報告書アーカイブの場合には、報告書のタイプごとに図表を作成し、エンド・ユーザーにそれらの記入を求めることをお勧めします。これにより、新しい OnDemand システムのパフォーマンスの最適化方法についての専門的な助言が得られるだけでなく、新しいユーザーの間で強い支持が得られるはずです。

この章の 36 ページの『報告書用カスタマイズ図表のサンプル』は、作業の開始に役立ちます。このサンプル図表は、ユーザー独自の報告書に適合するように更新することができます。

保存内容の選択

OnDemand へのマイグレーションの準備で最初に行う作業は、何を保存するかを決めることです。購入した OnDemand の機能に応じて、以下を保存することができます。

- 報告書
- オブジェクト

- データ・レコード
- IFS ファイル (PC アプリケーションからのものなど)、データベース・ファイル・メンバー、スプール・ファイル全体、またはプログラム・バッファからのデータ

スプール・ファイル・アーカイブ用報告書の識別

OnDemand のスプール・ファイル・アーカイブ機能を購入した場合には、どの報告書を保存するかを決める必要があります。報告書としては、送り状、従業員リスト、得意先の当座預金明細、あるいは業務におけるその他の報告書を挙げることができます。

報告書タイプおよびそれらの関係についてのリストを作成し、それらの保存および検索の方法を決定します。たとえば、得意先が自動車および住宅の保険を保持していたとすると、ユーザーは、両方の方針タイプを 1 つの報告書として保管するか、または各方針タイプを別個に保管して、その報告書を 1 つの報告書グループに入れることによりそれらの報告書をグループ化することができます。あとで、エンド・ユーザーは、個々の方針番号または得意先名により、どちらの文書でも検索することができます。

オブジェクト・アーカイブ用オブジェクトの識別

OnDemand のオブジェクト・アーカイブ機能をすでに購入されている場合は、各種の OS/400 オブジェクトを保管することができます。複数のコピー (世代) を保管する場合、OnDemand はユーザーに代わってそれらすべてを管理し、必要に応じて特定の世代を検索できるようにします。

たとえば、大量のトランザクション・レコードの月末合計を要約合計に組み入れ、総勘定元帳の該当の勘定との間でこれらの合計の加算または減算を行うアプリケーションを想定します。ユーザーの iSeries ディスク・スペースがこれらの明細トランザクションを保管するには不十分な可能性もありますが、OnDemand を使用すれば、このデータを保存して、ディスク・スペースを解放することができます。必要な場合は、後でこのデータをディスクへ検索し直すことができます。

AnyStore 用項目の識別

AnyStore 機能を購入した場合は、AnyStore API を使用して、IFS ファイル、データベース・メンバー、スプール・ファイル全体、またはプログラム・バッファからのデータなどの項目を保管することができます。これらのデータは、スプール・ファイル・アーカイブ (前提条件です) と同じ管理機能および記憶管理機能を使用して、ディスク、光ディスク、またはテープに保存することができます。

AnyStore は一般に、iSeries 上に IFS ファイルとして保管された PC ファイルに使用します。AnyStore は、ワークステーションのディスク装置の大部分を使用するような大きなオブジェクトを保管するのに有効な方法です。このようなデータは、AnyStore を使用して保存することができます。後の処理でこのデータをディスク、光ディスク、またはテープから検索し、ユーザー自身のアプリケーション・プログラムによって指定される場所に戻すことができます。

保存およびアクセスの要件

保存したい項目のタイプを決めた後、それらのアクセスおよび保存の要件を設定する必要があります。

各項目を分析して、頻繁に検索する必要があるかどうかを判別します。たとえば、当月の会計レコードが活動状態であるときにそれらのレコードに頻繁にアクセスし、次に年末に使用するために保存するなどです。照会に直ちに応答するように得意先取引一覧表を活動状態にしておくこともできます。また、一回限りの取引は 1 週間後に保存することもできます。

得意先に対するエンド・ユーザーの応答を考えてみます。そのデータの性質上迅速なオンライン応答が必要とされるレコードもあれば、あとで検索しても問題のないレコードもあります。OnDemand により、これらの要件を個々に定義することができます。

項目は、各カテゴリーに固有なキーまたは索引を使用して検索されます。たとえば、在庫の隔週要約報告書を日付別に保存および検索することができます。個人のレコードはその従業員の退職時にのみ保存することができ、従業員番号により検索することができます。

選択した検索キーにより検索時間が最短になるように、項目を入念に分析してください。

災害時回復計画の作成

重要な保存情報のバックアップおよび回復計画を確立することをお勧めします。得意先情報は業務の基本となるものですが、財務レコード、プログラム・アプリケーション、在庫情報、および他のデータも、災害後の回復にはきわめて重要です。

活動情報のバックアップ・コピーを定期的に作成および保持し、長期に保管するものが消失や損傷から保護されるようにする必要があります。

詳細については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の付録 D を参照してください。

法定要件の順守

特定の文書に関して保存期間を定めた法定要件（およびユーザー自身の内部要件）が存在する場合があります。監査証跡では、法律への適合のための文書および監視も必要になることがあります。OnDemand により、ユーザーの固有の要件に合致する保存特性を確立することができます。

OnDemand は、保存された報告書に無資格でアクセスしようとする試みについての監査ログを保持します。その他のログは、iSeries システムに組み込まれます。詳しくは、iSeries の解説書を参照してください。

記憶メディアの選択

データを分析し、保存期間を割り当て、各データに適切な記憶メディアを選択します。テープおよび光ディスクによる作業の手順については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 6 章を参照してください。

報告書の中には、長期保管を必要としないものがあります。すなわち、テープまたは光ディスクに自動的にマイグレーションされるまでディスク (DASD) に常駐する報告書があります。検索時間を最適にする場合、または保存期間がきわめて短い場合には、その項目をディスクに保管します。

たとえば、送り状の作成後、頻繁な即時アクセスが必要になる場合があります。ただし、法定または内部要件には、より長い保持期間が定められている場合があります。したがって、即時アクセスが不要になった後でテープまたは光ディスクへの自動マイグレーションを設定することができます。

ディスクでのみ保管

ディスク装置のみを使用する場合には、テープまたは光ディスクをセットアップする必要はありません。

- スプール・ファイルをディスクに保管する場合には、OnDemand のスプール・ファイル・アーカイブ機能により、データのセグメント化、索引付け、および圧縮が行われます。
- オブジェクト・アーカイブ機能は、OS/400 オブジェクトを圧縮します。また、ディスク上の複数の世代のオブジェクトを管理することができます。
- レコード・アーカイブ機能により、光ディスク・ファイルをディスクに保管することができます。これは、実際にデータを光ディスク・メディアに書き込む前に、ユーザー・アプリケーションのテスト時に行うことができます。

光ディスクへの保管

OnDemand で何らかの容量の光ディスクを使用する場合は、次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。

- WORM (一回書き込み、複数回読み取り)。
- 再書き込み可能光ディスク・カートリッジ。
- この 2 つの組み合わせ (多機能光ディスク・ライブラリーで使用する場合)。

LAN 接続されている光ディスク・ライブラリーか、ユーザーの iSeries に直接接続されている光ディスク・ライブラリーを使用できます。OnDemand で光ディスクを使用する前に、2 つのうちのいずれかをインストールし、構成する必要があります。どちらの接続を選択してもかまいません。

光ディスク記憶域メディアを選択すると、光ディスク・ボリュームにいくつかの方法でデータを編成することができます。

- 関連項目を複数の記憶域グループにまとめ、それらのグループを別個の光ディスク・ボリュームのセットに入れることができます。光ディスク・ボリュームのこれらのセットには名前が与えられ、OnDemand は、マイグレーション時に特定の保存データを特定のボリュームに入れることができます。たとえば、会計情報のすべてを光ディスク・ボリュームのあるセットに入れ、販売データのすべてを光ディスク・ボリュームの別のセットに入れることができます。
- データを 1 つの光ディスク・ボリュームのセットに入れることができます。この場合には、OnDemand に付属のサンプル記憶域グループ (**RDARSOPT**) を使用することができます。

再書き込み可能光メディアを使用するときには、削除や満了により空きになったスペースの再利用方針を考慮する必要があります。画面および詳細については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 6 章を参照してください。

光ディスクを使用するには、まず最初に光ディスクを初期化し、次にそれらを OnDemand 光ディスク・インベントリに追加し、それらが属する記憶グループを指定しなければなりません。

光ディスク・ボリュームの再利用方針の確立

データを光ディスクに保管する前に、報告書ごとの保存および満了要件について検討する必要があります。たとえば、送り状を 30 日間ディスクに保存して、それらを光ディスクに移して 2 年後に満了になるようにすることができます。送り状が満期切れになると、そのスペースを再利用することができます。

解放された光ディスク・スペースを OnDemand に再利用させる方法を定義するには、以下を行います。

- 「ONDEMAND FOR ISERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 4、「メディア管理メニュー」を選択します。
- オプション 10、「記憶グループの処理」を選択します。
ボリューム容量と限界値については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 6 章で詳しく説明します。

光ディスク記憶域グループの作成

報告書を光ディスクに保管するには、1 つまたは複数の光ディスク記憶域グループを作成する必要があります。光ディスク・ボリュームのすべてを 1 つの記憶域グループにグループ化するか、または種々の報告書を種々の光ディスク・ボリュームに書き込むためにそれらの光ディスク・ボリュームを複数の記憶域グループに分けることができます。

記憶域グループ（したがって、光ディスク・ボリュームのセット）は、各報告書のマイグレーション方針定義に指定されます。報告書定義をマイグレーション方針と関連付けることにより、その報告書のマイグレーション先の光ディスク・ボリュームのセットを決めます。

- 「ONDEMAND FOR ISERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 4、「メディア管理メニュー」を選択します。
- 選択する項目については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 6 章を参照してください。

テープ・メディアへの保管

テープ・メディアを使用し、その管理に OnDemand を使用する場合には、磁気テープ・ドライブを OnDemand に定義する必要があります。次に、適切な OS/400 コマンドを用いてテープを初期化し、それらをテープ・インベントリに追加します。詳細については「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 6 章を参照してください。

IBM Backup Recovery and Media Services for iSeries (BRMS) ソフトウェアをインストール済みの場合、このソフトウェアでテープを管理することができます。適切な OS/400 コマンドを使用してテープを初期化してから、OnDemand テープを組み込むように BRMS 環境をセットアップします。²

マイグレーション方針の確立

メディア環境を選択した場合には、スプール・ファイル・アーカイブ、オブジェクト・アーカイブ、および AnyStore マイグレーション (適用できる場合) に関する指針を確立します。³

保存中の項目ごとに異なるマイグレーション特性 (例: ある項目をディスク上または光ディスク上に残しておく必要のある時間) を定義することができます。ただし、通常、すべての保存項目に関するマイグレーション要件を分析して、限られた数の OnDemand マイグレーション方針を定義します。マイグレーション方針には、ディスク、テープ、または光ディスク上での保存日数や満了要件などに関するパラメーターが含まれます。

OnDemand がデータのマイグレーションに使用する 2 つの記憶域管理サイクルがあります。

- 報告書、および AnyStore の項目

報告書管理サイクルが実行されない限り、データがディスクから光ディスク・メディアに、またはディスクからテープに移動することはなく、また報告書が満期切れになることもありません。

- オブジェクト

オブジェクト管理サイクルが実行されない限り、保存オブジェクトがディスクから光ディスク・メディアに、またはディスクからテープに移動することはありません。

データの移動および有効期限の満了を確実に適時に行うためには、該当のサイクルを定期的に行う必要があります。これにより、新規データ用にスペースが解放されます。OnDemand インストール・システムには、記憶域管理サイクルを夜間に実行したり、週末に実行するものもあります。(iSeries でジョブ・スケジューラー・コマンドを使用して、これを自動化することができます。)⁴

報告書のセットアップ

スプール・ファイル・アーカイブ報告書の定義

報告書を定義するには、以下を行う必要があります。

- 報告書の特定のデータの行および列の位置を判別できるように、スプール・ファイル・データを物理ファイルにコピーする。
- スプール・ファイル・データからセグメンテーションおよびキー値を識別する。

2. 「Backup Recovery and Media Services for iSeries」を参照してください。

3. レコード・アーカイブ・ファイルは作成時にメディアに対して定義され、マイグレーションは行われません。

4. 「AS/400e シリーズ 実行管理の手引き」を参照してください。

- マイグレーション方針定義を各報告書に割り当てて、マイグレーション基準および満了基準を確立する。(報告書マイグレーション方針には、各報告書に関するマイグレーションおよび保存特性が含まれます。)
- 固有の特性を伴う報告書の特殊な印刷要件を判別する。
- 報告書オーバーレイ (オプション) を作成する。

「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章では、「報告書管理メニュー」画面および各フィールドについて説明しています。オペレーション・ナビゲーターのプラグインである OnDemand グラフィカル管理ツールを使用すると、スプール・ファイル・アーカイブの報告書を定義することができます。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章には、このツールの詳細が記載されています。

報告書の保管

報告書を定義した後の次のステップは、その報告書定義を使用してスプール・データを保存して、報告書を保管することです。これにはいくつかの方法があります。詳細については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。

- コマンド行から報告書保管コマンド (**STRCDSRDAR**) を実行する。
- 報告書のセットアップの後で、OnDemand モニターを使用して、出力待ち行列への報告書の到着時に報告書を収集することにより、この処理を自動化することができます。スプール・ファイルのスプール・ファイル名、用紙タイプ、またはユーザー・データの各フィールドの情報に基づいて、OnDemand は報告書を自動的に収集することができます。それが正しく処理されるとただちに、エンド・ユーザーに対し使用可能にします。夜間の処理で報告書を生成すると、そのような報告書は、オペレーターの介入なしに、次の勤務日の開始時にエンド・ユーザーが使用できるようになります。
- 報告書収集コマンド (STRCDSRDAR) を既存の制御言語 (CL) プログラムに追加することにより、OnDemand 報告書を自動的に収集することもできます。これにより、報告書の作成直後にその報告書を使用可能にすることができます。

オブジェクト・アーカイブの定義

「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 2 章では、保存オブジェクトの定義、保存、および検索を行う方法について説明しています。

オブジェクト・アーカイブの例として、毎月の月末に処理され、アプリケーション・データベース・ファイルから除去される明細トランザクション・ファイルがあります。このファイルを毎月保存し、それにより新しい世代を毎回作成して、必要な時点で各世代を検索してディスクへ戻すことができます。

オブジェクトは、保存オブジェクトとして圧縮および形式設定され、ディスクに保管されます。保存オブジェクトをディスクからテープまたは光ディスクに移すには、OnDemand オブジェクト管理サイクル (30 ページの『マイグレーション方針の確立』の項を参照) を実行する必要があります。

AnyStore の項目の定義

スプール・ファイル・アーカイブのように、AnyStore 項目にもデータのさまざまな特性を識別するための報告書定義が必要です。AnyStore の項目を定義するには、以下を行わなければなりません。

- 保存するデータのタイプ (IFS ファイル、データベース・ファイル・メンバー、スプール・ファイル全体、またはプログラム・バッファーからのデータ) を決定する。
- 後でデータを検索するために必要なキー値を識別する。
- マイグレーション方針定義を各報告書に割り当てて、マイグレーションおよび満了基準を確立する。

「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章で説明するように、スプール・ファイル・アーカイブの報告書定義と同じ管理画面を使用して AnyStore 定義を作成してください。スプール・ファイル・アーカイブの場合とは異なる重要な点がいくつかありますが、これについては「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 4 章で説明します。iSeries ナビゲーターのプラグインである OnDemand グラフィカル管理ツールを使用すると、スプール・ファイル・アーカイブの報告書を定義することができます。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章には、このツールの詳細が記載されています。

アプリケーション・プログラムへの AnyStore API の追加

AnyStore の項目を定義したら、次に、データの保管と検索を行うためのプログラムを作成します。データは、保管時と同じ形式で保存項目から戻されます。これで、プログラムは、以後の処理に最も便利な位置にデータを入れることができます。データの保管および検索を行うための API の詳細については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 4 章で説明します。

セキュリティの確立

保存をセットアップする時点で、その保護に必要なセキュリティのレベルを決定します。

スプール・ファイル・アーカイブの場合には、セキュリティは、OnDemand アプリケーション・レベル、および個々の報告書レベルでは必須であり、報告書グループ、およびキー・レベルではオプションです。管理ファイルおよびコマンドにアクセスする必要のある OnDemand システム管理担当者については、**QRDARSADM** ユーザー・プロファイルをグループ・プロファイルとして OnDemand 管理担当者のユーザー・プロファイルに追加する必要があります。**QRDARSADM** は、最初のグループ・プロファイル (**GRPPRF(QRDARSADM)**) または追加グループ・プロファイル (**SUPGRPPRF(QRDARSADM)**) の 1 つにすることができます。

オブジェクト・アーカイブの場合も、アプリケーション・レベルの権限が必須です。さらに、セキュリティ権限は、保存の時点および検索の時点の両方で検査されます。

レコード・アーカイブの場合もアプリケーション・レベルのセキュリティーが必須であり、ディスク・モデル・ファイルに対する権限が光ディスク・ファイルにも適用されます。以下の節を参照してください。

AnyStore セキュリティーは、アプリケーション・レベルおよび個々の AnyStore 項目 (報告書) レベルでは必須であり、グループおよびキー・レベルではオプションです。

OnDemand アプリケーション・レベルのセキュリティー

アプリケーション・レベルのセキュリティーは、個々の OS/400 ユーザー・プロファイルごとに、グループ・プロファイルごとに、またはこれら 2 つの組み合わせで、認可することができます。

- 「ONDEMAND FOR iSERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 1、「報告書管理メニュー」を選択します。
- オプション 10 を選択します。

この認可は、ユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルごとに 1 回だけ行います。

他のアクセス権限は、次のとおりです。

- オプション 11. OnDemand 報告書ユーザーの編集/認可
- オプション 12. OnDemand 報告書グループ・ユーザーの編集/認可
- オプション 13. キーのセキュリティーの処理

報告書レベルのセキュリティー

権限は、特定の報告書に対するアクセスが必要になるすべてのユーザーに与えなければなりません。それぞれの保存報告書に対して、どのようなユーザーがアクセスを必要とするかを判別するために、OnDemand の各ユーザーのジョブに関する責任について検討してください。エンド・ユーザー管理または OS/400 セキュリティー管理者に、これらの権限の認可を要求することができます。

ユーザーに権限を認可するには、以下を行います。

- 「ONDEMAND FOR iSERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 1、「報告書管理メニュー」を選択します。
- オプション 11 を選択します。

報告書グループ・レベルのセキュリティー

報告書グループを使用する場合には、アクセス権限を各エンド・ユーザーに与える必要があります。

ユーザーに権限を認可するには、以下を行います。

- 「ONDEMAND FOR iSERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 1、「報告書管理メニュー」を選択します。

- オプション 12 を選択します。

キー・レベルのセキュリティ

重要または機密性の高い情報を含む文書タイプの報告書処理するエンド・ユーザーに、キー・レベルのセキュリティを認可することができます。

たとえば、部門番号で索引付けされた給与情報を保存する場合があります。部門 123 の管理者 (ユーザー・プロファイル NANCY) には、当該部門の情報のみのアクセスを許可することができます。部門 456 の管理者 (ユーザー・プロファイル PAUL) は、その部門に関するデータを含む報告書のセグメントにのみアクセスすることができます。

キー・レベルのセキュリティを認可するには、以下を行います。

- 「ONDEMAND FOR iSERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 1、「報告書管理メニュー」を選択します。
- オプション 13 を選択します。

オブジェクト・アーカイブのセキュリティ

オブジェクト・アーカイブでは、アプリケーション・レベルの権限が必要になります。セキュリティ権限は、保存の時点および検索の時点の両方で検査されます。

AnyStore のセキュリティ

AnyStore のセキュリティは、前述のスパール・ファイル・アーカイブのセキュリティと類似しています。

OnDemand へのデータの入力

これで、OnDemand へのマイグレーションの計画段階が完了し、報告書の図表が (36 ページの『報告書用カスタマイズ図表のサンプル』を使用して) 作成されました。次の各項では、データの入力に使用される画面がどの章で説明されているかを示します。

メディアのセットアップ

「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 6 章では、磁気テープ装置とテープ・ボリューム、および光ディスク・ボリュームと記憶グループの処理方法について説明します。

- 「ONDEMAND FOR iSERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 6 章を参照してください。
- オプション 4、「メディア管理メニュー」を選択します。
- このメニューから該当のオプションを選択します。
- iSeries ナビゲーターのプラグインである OnDemand グラフィカル管理ツールを使用しても、磁気テープ装置とテープ・ボリューム、および光ディスク・ボリュームと記憶グループを処理することができます。

マイグレーション方針テーブルの記憶域要件の定義

メディアのセットアップ後、マイグレーション方針テーブルの保存に関する実際の記憶域要件を入力してください。報告書アーカイブ、オブジェクト・アーカイブ、または AnyStore 保存は、すべてマイグレーション方針定義を持たなければなりません。報告書管理サイクルおよびオブジェクト管理サイクルにより、指定されたメディアに項目が保管され、割り当てられた期間だけ保持されます。

マイグレーションや保存期間の当初の見積もりは、実際の報告書の使用統計に関連するヒストリカル・データが OnDemand によって収集された後で、修正することができます。ある期間 OnDemand を使用した後で、特定の報告書をエンド・ユーザーがどの程度の頻度と期間で処理したかについての統計を示す報告書を生成することができます。報告書の実際の使用状況を示す報告書の生成に関する詳細は、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。

報告書のマイグレーション方針を入力するには、以下を行います (スプール・ファイル・アーカイブおよび AnyStore に適用します)。

- 「ONDEMAND FOR ISERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 1、「報告書管理メニュー」を選択します。
- オプション 2 を選択します。
- iSeries ナビゲーターのプラグインである OnDemand グラフィカル管理ツールを使用しても、報告書のマイグレーション方針を入力することができます。

オブジェクト・アーカイブのマイグレーション方針を入力するには、以下を行います。

- 「ONDEMAND FOR ISERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 2、「オブジェクト管理メニュー」を選択します。
- 選択する項目の決定については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 2 章を参照してください。

複数の項目が同一のマイグレーションおよび保存特性を持つ場合には、複数の項目で同一のマイグレーション方針名を使用することができます。

報告書検索基準の選択

スプール・ファイル・アーカイブおよび AnyStore の場合には、各報告書はデータがどのようにセグメント化され索引付けされるかを定義する報告書定義を持っている必要があります。得意先データの迅速な検索は、業務上重要です。どのような索引値 (キー) が報告書の検索に最も役立つかを判別する際には、各ユーザーの意見が役に立ちます。たとえば、あるタイプの報告書では、得意先名による検索が最も効果的で、別のタイプの報告書では、アドレス検索が最も効果的となります。

使用するキーを決定した時点で、以下を行います。

- 「ONDEMAND FOR ISERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 1、「報告書管理メニュー」を選択します。

- オプション 4 を選択します。
- iSeries ナビゲーターのプラグインである OnDemand グラフィカル管理ツールを使用しても、報告書定義を入力することができます。

定義のための報告書データの用意

報告書の定義に先立って、まず報告書データを含むスプール・ファイルを物理ファイルにコピーする必要があります。これにより、そのスプール・ファイルのすべての印刷行を表示することができ、取り出したいデータの行と列の位置を調べることができます。

物理ファイルを作成して、スプール・ファイルをその物理ファイルにコピーするには、以下を行います。

- 「ONDEMAND FOR ISERIES」メイン・メニューにアクセスします。「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 1 章を参照してください。
- オプション 1、「報告書管理メニュー」を選択します。
- オプション 20 を選択します。
- このメニューから該当のオプションを選択します。
- iSeries ナビゲーターのプラグインである OnDemand グラフィカル管理ツールを使用することもできます。このツールには、取り出したいデータの行と列の位置を調べるために役立つ、位置指定機能が組み込まれています。

優先ユーザー・インターフェースの決定

スプール・ファイル・アーカイブの場合、各ユーザーは「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 8 章の画面から、または既存のアプリケーションから、保存された報告書にアクセスすることができます。OnDemand をユーザーのアプリケーションに追加するための OnDemand API に関する詳細については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の付録 A を参照してください。また、OnDemand クライアントを使用して、保存された報告書にアクセスするためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを用意することもできます。OnDemand クライアント/サーバー機能の詳細については、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 5 章を参照してください。

報告書用カスタマイズ図表のサンプル

この図表を参考にして、現在および将来の報告書処理に関する基準を設定してください。報告書ごとに 1 つの図表を作って、ノートに記入しておくことができます。また、ノートを参照ツールとして各エンド・ユーザーに配布し、「*IBM Content Manager OnDemand for iSeries 管理ガイド*」の第 8 章のコピーをそのノートに含めることもできます。

表 2. 報告書定義: 送り状

属性	割り当て	注
報告書名:	INVOICE	
メディア:	ディスク	
マイグレーション先:	光ディスク	

表 2. 報告書定義: 送り状 (続き)

属性	割り当て	注
マイグレーション時間フレーム:	30 日	
満了:	7 年	法定要件
セグメンテーション:	会計番号の変更時にセグメント化	
キー 1:	123-4567	会計番号
キー 2:	ABC 社	企業名
キー 3:	Jane Doe	購買エージェント
キー 4:	1-800-BUY OURS	Jane の電話番号
キー 5:		
報告書グループ:	INVINFO	送り状情報
マイグレーション方針:	ABCCOLL	
報告書オーバーレイ:	送り状	

以下に、ブランクの用紙を記載します。

表 3. 報告書定義:

属性	割り当て	注
メディア:		
マイグレーション先:		
マイグレーション時間フレーム:		
満了:		
セグメンテーション:		
キー 1:		
キー 2:		
キー 3:		
キー 4:		
キー 5:		
報告書グループ:		
マイグレーション方針:		
報告書オーバーレイ:		

付録 A. OnDemand の HFS から IFS へのデータ変換

重要:

この節は、OnDemand のバージョン 4 リリース 2 より前のリリースから、バージョン 5 リリース 3 にアップグレードするユーザーにのみ関係があります。

概要

IBM では、すべてのディスク常駐報告書テキストおよび関連オブジェクトで**統合ファイル・システム**を使用できるように、OnDemand スプール・ファイル・アーカイブ機能を更新しました。V4R2 より前の OnDemand では**階層ファイル・システム (HFS)**を使用して、報告書を文書ライブラリー・オブジェクト (DLO) として OS/400 フォルダーに保管していました。**統合ファイル・システム**は、情報を処理するためのより新しい方式をサポートしています。これらの処理方式には、クライアントおよびサーバー・コンピューティング、オープン・システム、マルチメディアなどの項目が含まれます。**統合ファイル・システム**にある数多くの利点の中には、次のようなものがあります。

- 各種の OS/400 データ・タイプへの高速アクセス。
- テキスト、グラフィックスなどのデータ・ストリーム・ファイルの効率的な処理。
- グラフィカル・ユーザー・インターフェースの類似性の向上。

OnDemand では、**統合ファイル・システム**に変更することで、次のような利点が提供されます。

- 保存済みデータの編成の向上。
- 保存済みデータへの高速アクセスおよび高速操作。
- 古い**階層ファイル・システム (HFS)**で継承された一部制限の除去。

統合ファイル・システムへの変更は、ほとんどの OnDemand ユーザーがまったく意識することがありません。ファイル・システム変更は、保管操作や復元操作などの一部の管理機能に影響を及ぼします。古い HFS では、ディスク常駐報告書テキストは、文書ライブラリー・サービス・ファイル・システム (QDLS) 内のフォルダーに保管されています。このような報告書 (**HFS** における) の**アクセス・パス**は次のようになります。

```
/QDLS/INV001###.###/19961024.001
```

ここで、“INV001” は報告書定義名で、実際の報告書テキスト・オブジェクトの名前は “19961024.001” です。

統合ファイル・システムを使用した場合、同じ報告書の**アクセス・パス**は次のようになります。

```
/QIBM/UserData/RDARS/SpoolFile/INV001/19961024.001
```

ここで、報告書テキスト・オブジェクト ("19961024.001") の前にあるパス項目はすべて、「root」ファイル・システム内のディレクトリーを表します。報告書ディレクトリー名は報告書定義名であり、古い HFS フォルダー名では入っていた # 文字は付加されないことに注意してください (OnDemand 権限リストの名前の変更名も同じように行われるので、各報告書の権限リストの名前は、報告書定義の名前と同じになります)。

これらのディレクトリーの構造化方法および使用方法は、DOS 環境の場合と似ており、DOS ベースの PC システムのユーザーにはなじみのあるものです。ディレクトリーの利点は、構造内のどのレベルでもバックアップできることです。たとえば、OnDemand 報告書定義およびその内容はすべて、以下の IFS コマンドでテープにバックアップできます。

```
SAV DEV('QSYS.LIB/tape-id.DEVD')
OBJ('/QIBM/UserData/RDARS/SpoolFile/*
```

ここで、"tape-id" はテープ装置の名前です。

変換の概要

HFS から IFS への変換を実行する前に、ライブラリー **QUSRRDARS** およびすべての OnDemand フォルダーをバックアップしてください。

その後、ここで詳しく説明する IFS データ変換プロセスを実行してください。前のバージョンの R/DARS または OnDemand から移行するユーザーは、OnDemand のためのこのデータ変換プロセスを開始して正しく機能させることが必要です。一般に、この変換により、すべての DASD 常駐の保存済み報告書が古い HFS フォルダーから新しい IFS ディレクトリーに移動します。

この変換プロセスは 4 つのステップから成っています。

1. 「root」ファイル・システムに、**統合ファイル・システム**が使用する新規の OnDemand ディレクトリーを作成します。このステップでは、既存の OnDemand 権限リストの名前も変更されます。
2. まだディスクに常駐しているすべての保存済み報告書を、古い HFS フォルダーから新しいディレクトリーに移動します。光ディスクまたはテープにマイグレーションされている保存済み報告書、およびすべての保存済み報告書の索引は、この変換プロセスの影響を受けません。
3. 保管済み報告書ファイル (QARLRSRT) のレコードで、ステップ 2 でポストされた「移動済み」状況をクリアします。
4. 古い HFS フォルダーを削除します。

次に、上記の変換ステップについて詳しく説明します。各節では、以下の内容を扱います。

- 必要な準備。
- 実行される機能およびプログラムの実行方法。
- エラー検査に必要な情報。
- 必要に応じてステップを再実行する方法。

一般的な指示および前提条件

実際にデータ変換を開始する前に、変換プロセス全体に影響を与える非常に重要な問題および前提条件について説明します。**統合ファイル・システム**への変更を実行する場合は、事前にこれらの指示を必ず読んでください。開始する前に、疑問がないようにしておいてください。

- 前提事項: このデータ変換プロセスはすべて、以下の前提の元で設計、作成、およびテストされています。
 - OnDemand が「正常」にインストールされていること。
 - すべての添付ファイルおよびその他のオブジェクトが適切にインストールされていること。
 - 通常のセキュリティ構造および関係が保持されていること。

何か変更した場合は、これらのデータ変換プログラムを使用する前に、OnDemand サポート・グループにお問い合わせください。

- **統合ファイル・システム**の変更をインストールする前に、OnDemand のバックアップを取ります。変換プログラム内には、「戻る」機能や、HFS から IFS への変換プロセスを逆にする機能はないので、この処置は非常に重要です。

SAVDLO を使用して、すべての OnDemand フォルダーとその内容をバックアップします。SAVDLO の使用方法の詳細については、42 ページを参照してください。

HFS から IFS への変換を実行する前に、現在のライブラリー **QUSRRDARS** のバックアップを作成します。**QUSRRDARS** のバックアップには、**SAVLIB** または **SAVOBJ** を使用します。

一般に、プロセス全体を開始する前に行ったバックアップを復元することでしか完全な回復は実現できません。バックアップ・プロセスの詳細については、42 ページを参照してください。

権限リストの変更の「取り消し (undo)」に関する重要事項: 「ディレクトリーの作成」ステップを実行した場合は、変更した権限リスト名をリセットするプロセスについて、OnDemand サポート担当者に問い合わせてください。このことは、「ディレクトリーの作成」プロセスの実行が部分的か完全かにかかわらず、当てはまります。これは、以下の条件で行ってください。

- QUSRRDARS ライブラリーの古い内容を復元する前。
- QRLRIDCCD プログラムが使用した QARLRCT ファイルを変更する前。

これは、変更された権限リストの名前をリセットするには、QARLRCT ファイルの内容が必要になるためです。権限リストのバックアップを復元してはなりません。変更を「取り消し」するのに RSTAUT を実行しないでください。

- 変換プロセス中に OnDemand を使用してはなりません。各変換ステップは、実行前に OnDemand が使用されていないことを確認しますが、ステップとステップの間で「ロックアウト」が強制的に実行されることはありません。特に、報告書を OnDemand に保存したり、変換プロセス中に報告書管理サイクルを実行すると、保存したデータは失われます。さらに、これを行うと、簡単に「ほとんど自動的」なプロセスで予想外の状態が発生してしまいます。
- 指示には慎重に従ってください。各ステップは詳細に説明されており、エラーの分析や再始動方法に関する情報が明示的に示されています。各ステップで大切なのは、以下のことを確認するまで先に進まないということです。

- 前のステップが完了したこと。
- 前のステップを慎重にチェックしたこと。
- 必要に応じて前のステップを再実行すること。

たとえば、ステップ 1 が完全に終了しておらず、一部の新規報告書ディレクトリーが欠落していると、ステップ 2 で、テキスト・オブジェクトはその欠落しているディレクトリーに移動されません。同様に、ステップ 2 をチェックせず、再実行しないままステップ 3 を実行して、「移動済みフラグ」をクリアすると、ステップ 2 を再実行したときにエラーが発生します。

- データ変換プロセスの各プロセスを実行したら、エラーが発生していないかどうかチェックします。各プロセスは、戻りコードと、変換されたオブジェクトの数を一般情報として提供します。詳細な状況メッセージがジョブ・ログにポストされます。ゼロよりも大きい数値が付いた、「失敗したテキスト (の移動)」などの例外は無視しないでください。分析に関するこれらの例外および情報、および各種のエラー条件からの回復の詳細については、以下の説明を参照してください。

ディレクトリーの作成

準備

- すべての OnDemand HFS フォルダの適正な現在のバックアップを必ず用意しておいてください。SAVDLO コマンドで DLO(*ALL) および FLR(*ANY) パラメーターを指定して、すべてのフォルダおよびその内容をバックアップします。OnDemand が作成したフォルダだけをバックアップするには、このコマンドを使用します。

```
SAVDLO DLO(*SEARCH) SRCHTYPE(*ALL) DEV(tpid) OWNER(QRDARS400)
```

ここで、“tpid” はテープ装置の名前です。OnDemand 以外のフォルダが多い場合には、このバックアップ操作の適用範囲を制限することで、時間を大幅に節約できる場合があります。

- OnDemand QUSRRDARS ライブラリーのバックアップ・コピーを作成します。「一般的な指示および前提条件」の節で推奨したように、これらのライブラリーのバックアップは、**統合ファイル・システム**の変更をインストールする前に取らなければならないなりません。バックアップを取っていない場合は、ここで QUSRRDARS ライブラリーのバックアップ・コピーを作成してください。
- OnDemand 機能を誰も使用していない、または使用する予定がないことを確認します。

プロセス

- QSECOFR ユーザー・プロファイル、または “*ALLOBJ” 権限を持つプロファイルを使用して、サインオンします。
- ライブラリー・リストに QRDARS ライブラリーを追加します。
- 以下のコマンドのうちのいずれかを使用して、「ディレクトリーの作成」プログラム QRLRIDCCD を実行します。

```
SBMJOB CMD(CALL PGM(QRLRIDCCD) PARM(' '))
CALL PGM(QRLRIDCCD) PARM(' ')
```

プログラムをバッチで実行する場合は、SBMJOB コマンドを使用することをお勧めします。このプログラムは実際には「バッチ・ジョブ」なので、QRLRIDCCD をバッチ・ジョブとして実行すると、出力されるジョブ・ログが小さくなります。プログラムを対話式で実行する場合は、システム値 QINACTITV で指定する対話式ジョブのタイムアウト間隔が *NONE に変更されていることを確認します。これで、プログラムは確実に最後まで実行されます。

- プログラム QRLRIDCCD は以下の機能を実行します。
 1. ジョブ環境とユーザーの権限を検査します。
 2. 「固定パス」内のすべての必須ディレクトリー (/QIBM/UserData/RDARS)、「コンポーネント」ディレクトリー (/SpoolFile)、および最初の「パス・レベル」のディレクトリー (/001/001) を作成します (ない場合)。これらのディレクトリーが既にある場合は、所有権の検査と権限の制御が実行されます。
 3. **統合ファイル・システム**のすべての報告書ディレクトリー (古い HFS フォルダに対応するもの) を作成します。QARLRACT レコード内のフィールド 'CDTYPE' の一意の値ごとに 1 つの「報告書ディレクトリー」を作成します。新規の各報告書ディレクトリーの名前は 'CDTYPE' 値と同じで、HFS フォルダ/権限リスト名の場合のように # は付加されません。
 4. プログラムは新規の各報告書ディレクトリーごとにシンボリック・リンクを作成します。このシンボリック・リンクにより、報告書ディレクトリーの作成時に使用した**統合ファイル・システム**のパス (ディレクトリー) との対応付けが確立されます。したがって、"/QIBM/UserData/RDARS/Spoolfile/CHECKSTMTS" などの明白なまたは論理的なパスは、実際のパス "/QIBM/UserData/RDARS/SpoolFile/001/004/CHECKSTMTS" にリンクされます。(統合ファイル・システムの使用時に許容可能な範囲のパフォーマンスを確保するには、実際の IFS ディレクトリー・パスに追加レベルが必要となります。)
 5. 既存の権限リストの名前を変更します。権限リスト "INVOICE###" は、"INVOICE" または "INVOICE_n" (n=1 ~ 9、"INVOICE" 権限リストが既に存在する場合) に変更されます。
 6. 権限リストの新しい名前、および使用される「レベル・ディレクトリー」の名前 (例: "001/015") は、それぞれフィールド 'SECEXITLIB' および 'SECEXIT' に格納されます。これらのフィールドは QARLRACT レコードに入っています。
 7. 必要な "/AFP_Resources" ディレクトリーを報告書ディレクトリー内に作成します。このことは、報告書データ・タイプ (QARLRACT レコード内) が "**AFPDS" の場合、または古い "AFPRSC" サブディレクトリーが HFS ファイル・システムにある場合に適用されます。

エラー分析

- 誰か他の人が OnDemand を使用していたり、ユーザーがプログラムに必要な権限を持っていないと、直ちにエスケープ・メッセージが発行されます。
- プログラムが正常に実行され、QARLRACT ファイルのファイルの終わり条件に達すると、要約データが、以下に示す形式で表示されます。このメッセージが表示されない場合は、ジョブ・ログをチェックして、エラーを探してください。
- プログラムは、終了すると、"QRLRIDCCD COMPLETED: ACT RECS = ..." という語から始まるテキストを持つ CPF9898 完了メッセージを生成します。この要約状況メッセージは、ジョブ・ログに必ず表示されます。このプログラムはジョ

ブ・ログを必ず出力します。プログラムを対話式で実行した場合は、ワークステーションに "QRLRIDCCD COMPLETED" というメッセージが表示されます。プログラムをバッチで実行した場合は、ワークステーションに "batch job-completed" というメッセージが表示されます。"QRLRIDCCD COMPLETED..." 完了メッセージには、以下の状況情報と累積値が含まれています。

END STATUS = XXXXXXXX

この「戻りコード」は、QRLRIDCCD がファイル QARLRACT 内のすべてのレコードを読み取った ("ACT-EOF") ことを示すか、または早期に停止された理由を提供します。

SRT-IN-USE

誰か他の人が OnDemand を使用しました。

AUTH-ERR

QRLRIDCCD を実行するには権限が不十分です。

NODIR-xxxx

指定されたディレクトリーを作成できませんでした。

ERROR-CDIR

呼び出し先プログラム QRLCDIR でエラーが発生しました。

ERROR-SVA

呼び出し先プログラム QRLRIDCSVA でエラーが発生しました。

ACT-EOF

QARLRACT でファイルの終わりに達しました (正常な状況)。

ACT LIB = XXXXXXXXXXXX

実際に使用された ACT ファイルを含み、かつ QRLRIDCCD によって更新されたライブラリー (これは、通常はライブラリー QUSRRDARS です)。

ACT RECS = nnnnnn

プログラムが読み取った QARLRACT レコードの総数。この数値は、"ACT LIB" で指定されたライブラリー内のファイル QARLRACT 内のレコードの総数に一致しなければなりません。

ACT DUPS = nnnnnn

一意ではない 'CDTYPE' (報告書名) 値を持つ QARLRACT レコードの数。すなわち、複数のバージョンが定義された各報告書では、最初を除くすべてが「重複」します。報告書の複数のバージョンは、同じフォルダーまたはディレクトリーに格納されます。

ACT SKIPS = nnnnnn

報告書ディレクトリーの作成を起動する際に使用されない QARLRACT レコードの数。報告書のデータ・タイプが "UBND" の場合は、ディレクトリーは存在しません。また、報告書の HFS フォルダーを保証する権限リストが欠落している場合は、ACT レコードはスキップされています。

AUTL ERRORS = nnnnnn

正しく名前が変更されなかった OnDemand 権限リストの数 (前述の段落を参照してください)。この値は常にゼロでなければなりません。ゼロ以外の場合、これは名前変更されなかった権限リストの数を示しているため、対応す

る報告書ディレクトリーが作成されなかったこととなります。ジョブ・ログで、このようなエラーに関する詳細を提供する CPF9898 メッセージを調べてください。

DIR CREATED = nnnnnn

新たに作成された報告書ディレクトリーの数。これらの「正常に作成された」ディレクトリーにはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリーがあります。

DIR EXISTED = nnnnnn

既に存在するために作成されなかった新規の報告書ディレクトリーの数。この数値は、今回が再実行である場合は、このプログラムの前回の実行で作成されたディレクトリーの数と一致しなければなりません。ただし、これが最初の実行である場合は、この値はゼロでなければなりません。

DIR FAILED = nnnnnn

新規ディレクトリーの作成に失敗した回数。この数値は必ずゼロでなければなりません。ゼロ以外の場合は、ジョブ・ログの特定のエントリー (たいてい CPFA0xx メッセージであることが多い) でエラーの原因を調べてください。(一般に、上記にリストされている値は、(ACT RECS - ACT DUPS - ACT SKIPS) = (DIR CREATED + DIR EXISTED) で等しくなっていなければなりません。AUTL ERRORS および DIR FAILED はどちらもゼロでなければなりません。)

LINK CREATED = nnnnnn

新たに作成されたシンボリック・リンクの数。これらの「正常に作成された」リンクにはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリーがあります。

LINK EXISTED = nnnnnn

既に存在するために作成されなかった報告書のシンボリック・リンクの数。この数値は、今回が再実行である場合は、このプログラムの前回の実行で作成されたリンクの数と一致しなければなりません。ただし、これが最初の実行である場合は、この値はゼロでなければなりません。

LINK FAILED = nnnnnn

シンボリック・リンクの作成に失敗した回数。この数値は必ずゼロでなければなりません。ゼロ以外の場合は、ジョブ・ログの特定のエントリー (たいていの場合 CPFA0xx メッセージ) でエラーの原因を調べてください。

AFP CREATED = nnnnnn

作成された "/AFP_Resources" サブディレクトリーの数。このサブディレクトリーは、ACT レコードのデータ・タイプが "*AFPDS" または "*AFPDSL" の場合、または古い "/AFPRSC" サブフォルダーが存在する場合に作成されます。これらの「正常に作成された」サブディレクトリーはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリーを持っています。

AFP EXISTED = nnnnnn

すでに存在するために作成されなかった必要な "/AFP_Resources" ディレクトリーの数。この数値は、今回が再実行である場合は前回の実行で作成された AFP ディレクトリーの総数と一致しなければなりません。

AFP FAILED = nnnnnn

これは、AFP ディレクトリーの作成に失敗した回数です。この数値は必ずゼ

ロでなければなりません。ゼロ以外の場合は、ジョブ・ログの特定のエントリー (たいていの場合 CPFA0xx メッセージ) でエラーの原因を調べてください。

- もう 1 つ必要なチェックが残っています。ジョブ終了の要約メッセージから数値をチェックして、ジョブ・ログを調べてください。また、このステップでは、古い HFS フォルダーと新しい「root」ファイル・システム・ディレクトリーとの比較も必要です。HFS フォルダーとその内容は、WRKFLR でチェックできます。報告書オブジェクトがまだ入っていない新規のディレクトリー構造は、WRKLNK でチェックできます。

エラー回復

QRLRIDCCD の回復プロセスは、エラー条件を修正した後に単にプログラムを再実行するだけのことです。プログラムに割り込みが生じる場合は、何も変更せずに再実行することができます。プログラムを再実行すると、明らかに各種の "...EXISTED" および "...CREATED" の総数 (上記を参照) に影響が及びます。問題を突き止めるために、ジョブ・ログは **QRLRIDCCD** を実行するたびに必ず保管してください。**重要事項:** このステップを実行した場合は、変更された権限リスト名をリセットするプロセスについて、OnDemand サポート担当者に問い合わせてください。このことは、ステップの実行が部分的か完全かにかかわらず、適用されません。権限リストのバックアップを復元してはなりません。

報告書の移動

準備

- OnDemand のバックアップを実行済みでなければなりません。まだ実行していない場合は、バックアップ・コピーを作成しないまま先に進まないでください。これらのコピーの作成方法については、前述の「一般的な指示および前提条件」の節と、42 ページに記載されています。この変換ステップを実行すると、HFS フォルダーから報告書テキスト・オブジェクトが除去され、ファイル QARLRST が変更されます。これらのバックアップを取っておかないと、変更を逆に戻すことができなくなります。
- 前述のステップ「ディレクトリーの作成」が正常に実行されたことを確認します。そのステップで発生したエラーのために消失したディレクトリーがあると、このステップでもさらにエラーが発生します。

注意:

前述のステップで代替の **QARLRCT** ファイルを使用した場合は、そのファイルと **QUSRRDARS** 内の **QARLRCT** との相違点を探してください。見つかった相違点は、このステップを実行する前に解決してください。「ディレクトリーの作成」ステップで使用したファイルは、更新されています。さらに、**QARLRCT** のコピーに追加した情報は重要です。その情報がないと **R/DARS** は正しく動作しません。**QARLRCT** のコピーを **QUSRRDARS** ライブラリーに移動またはコピーすると、**QUSRRDARS** 内で置換後のファイルに加えた変更はすべて失われます。

- OnDemand 機能を誰も使用していない、または使用する予定がないことを確認します。

プロセス

- QSECOFR ユーザー・プロファイル、または "*ALLOBJ" 権限を持つプロファイルを使用して、サインオンします。
- ライブラリー・リストに QRDARS ライブラリーを追加します。
- 以下のコマンドのいずれかを使用して、「報告書の移動」プログラム QRLRIDCMOV を実行します。

```
SBMJOB CMD(CALL PGM(QRLRIDCMOV) PARM(' '))  
CALL PGM(QRLRIDCMOV) PARM(' ')
```

プログラムをバッチで実行する場合は、SBMJOB コマンドを使用することをお勧めします。このプログラムは実際には「バッチ・ジョブ」なので、QRLRIDCMOV をバッチ・ジョブとして実行すると、出力されるジョブ・ログが小さくなります。プログラムを対話式で実行する場合は、システム値 QINACTIV で指定する対話式ジョブのタイムアウト間隔が *NONE に変更されていることを確認します。これで、プログラムは確実に最後まで実行されます。

- プログラム QRLRIDCMOV は以下の機能を実行します。
 1. QARLSRT ファイル内の、'WHERE' = "D" (報告書テキスト・オブジェクトが DASD 上の HFS フォルダー内にある) であるすべてのレコードを読み取ります。
 2. これらの選択された SRT レコードごとに、以下を実行します。
 - 保存した報告書テキストを、HFS フォルダーから「root」ファイル・システム内の新規ディレクトリーに移動します。
 - "/AFPRSC" サブディレクトリー内で、対応するオブジェクト名をチェックします。(サブディレクトリーまたは AFP リソース・オブジェクトのいずれかが存在していない可能性があります。このチェックは、すべての報告書オブジェクトに対して行われます。)AFP リソース・オブジェクトが検出された場合は、それを新規の "/AFP_Resources" サブディレクトリーに移動します。
 3. SRT レコード内の 'WHERE' 値を "M" (= "Moved") に変更します。(この更新により、このプログラムは割り込みおよび再始動のイベント時に「移動されていない」レコードを選択することができます。さらに、再実行の場合には、最初にエラー検索とエラー修正をした後で報告書を移動することができます。)

エラー分析

- 誰か他の人が OnDemand を使用していたり、ユーザーがプログラムに必要な権限を持っていないと、直ちにエスケープ・メッセージが生成されます。
- QARLSRT ファイルからレコードを選択および処理してプログラムを実行すると、以下に示す形式で要約メッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、ジョブ・ログをチェックして、エラーを探してください。
- プログラムは、終了すると、"QRLRIDCMOV COMPLETED: ..." という語から始まるテキストを持つ CPF9898 完了メッセージを生成します。この要約状況メッセージは、ジョブ・ログに必ず表示されます。このプログラムはジョブ・ログを必ず出力します。プログラムを対話式で実行した場合は、ワークステーションに "QRLRIDCMOV COMPLETED" というメッセージが表示されます。プログラムを

バッチで実行した場合は、ワークステーションに "batch job-completed" というメッセージが表示されます。"QRLRIDCMOV COMPLETED..."完了メッセージには、以下の要約情報が含まれています。

SRT STATUS = xx...x

このジョブ内の 1 次処理プログラムが終了したときの QARLSRT の「ファイル入出力」状況。有効な値は以下のとおりです。

SRT-EOF

正常な状況。選択されたすべてのレコードが読み取られ、処理されたことを示します。

SRT_ERROR

ファイル・アクセス・エラーまたは入出力エラーが発生した可能性があることを示します。この状況は調査して、修正しなければなりません。

SRT RECS = nnnnn

プログラムが読み取った QARLSRT レコードの総数。この数値は、ライブラリー QUSRRDARS 内のファイル QARLSRT 内のレコードの総数と一致しなければなりません。これらのファイルには、ディスク常駐を表す 'WHERE' = "D" フィールドが含まれています。テープまたは光ディスクメディア上の保存済み報告書は、この変換プロセスの影響を受けません。

TXT MOVED = nnnnn

移動した報告書テキスト・オブジェクトの数。これらの「正常に移動された」オブジェクトはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリを持っています。変換が完全な場合は、TXT MOVED = SRT RECORDS となります。変換が完全でない場合は、エラーが発生した理由を認識し、そのエラーを受け入れるかまたは修正できるまで、調査してください。

TXT FAILED = nnnnn

報告書オブジェクトの移動に失敗した回数。この数値は必ずゼロでなければなりません。ゼロ以外の場合は、ジョブ・ログの特定のエントリ（たいていの場合 CPFA0xx メッセージ）でエラーの原因を調べてください。

AFP NOT FND = nnnnn

処理は実行するが、対応する AFP リソース・オブジェクトを持っていない報告書テキスト・オブジェクトの数。AFPDS ではない保存済み報告書が多い場合には、通常、この数値は非常に大きくなります。

AFP MOVED = nnnnn

これは、新規の報告書ディレクトリー内の "/AFP_Resources" サブディレクトリーに移動された AFP リソース・オブジェクトの数です。保存されたそれぞれの AFPDS 報告書オブジェクトは、これらの AFP リソース・オブジェクトの 1 つをもっていなければなりません。これらの「正常に移動された」オブジェクトはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリを持っています。

AFP FAILED = nnnnn

これは、AFP リソースの移動に失敗した回数です。この数値は必ずゼロでなければなりません。ゼロ以外の場合は、ジョブ・ログの特定のエントリ（たいていの場合 CPFA0xx メッセージ）でエラーの原因を調べてください。

- もう 1 つ必要なチェックが残っています。ジョブ終了の要約メッセージから数値をチェックして、ジョブ・ログを調べてください。また、このステップでは、古い HFS フォルダーと新しい「root」ファイル・システム・ディレクトリーとの比

較も必要です。HFS フォルダとその内容は、WRKFLR でチェックできます。報告書オブジェクトがまだ入っていない新規のディレクトリー構造は、WRKLNK でチェックできます。古い AFP リソース・オブジェクトは、報告書フォルダ内の "/AFPRSC" サブディレクトリーに保管されます。移動された AFP リソース・オブジェクトは、新規の報告書ディレクトリー内の "/AFP_Resources" サブディレクトリーに保管されます。

エラー回復

QRLRIDCMOV の回復プロセスは、エラー条件を修正した後に単にプログラムを再実行するだけのことです。プログラムに割り込みが生じる場合は、何も変更せずに再実行することができます。プログラムを再実行すると、明らかに各種の "...MOVED" の総数 (上記を参照) に影響が及びます。これは、「移動されていない」報告書だけが QARLSRT ファイルから選択されるからです。'WHERE' フィールドに入っている "M" 値は、データ変換プロセスのこの部分で効率的な再始動および再実行を可能にする一時マーカースです。非常に重要なことは、以下のステップ 3 を実行してもこれらの値がクリアされないことです。このステップは必要に応じて何度でも実行し、すべての報告書オブジェクトを新規ディレクトリーに移動してください。問題を突き止めるために、ジョブ・ログは **QRLRIDCMOV** を実行するたびに必ず保管してください。

"Moved" 状況のクリア

準備

- 前のステップ「報告書の移動」が正常に完了したことを確認します。QRLRIDCMOV プログラムによって 'WHERE' フィールドに書き込まれた "M" 値は、一時マーカースです。このマーカースにより、データ変換プロセスのその部分で、再始動および再実行を効率よく行えるようになります。非常に重要なことは、このステップを実行してもこれらの値はクリアされないことです。前のステップは必要に応じて何度でも実行し、すべての報告書オブジェクトを新規ディレクトリーに移動してください。
- OnDemand 機能を誰も使用していない、または使用する予定がないことを確認します。

プロセス

- QSECOFR ユーザー・プロファイル、または "*ALLOBJ" 権限を持つプロファイルを使用して、サインオンします。
- ライブラリー・リストに QRDARS ライブラリーを追加します。
- 以下のコマンドのいずれかを使用して、「移動済み状況のクリア」プログラム QRLRIDCCLM を実行します。

```
SBMJOB CMD(CALL PGM(QRLRIDCCLM) PARM(' '))  
CALL PGM(QRLRIDCCLM) PARM(' ')
```

プログラムをバッチで実行する場合は、SBMJOB コマンドを使用することをお勧めします。このプログラムは実際には「バッチ・ジョブ」なので、QRLRIDCCLM をバッチ・ジョブとして実行すると、出力されるジョブ・ログが小さくなります。

- プログラム QRLRIDCCLM により、「移動済み」フラグはすべてクリアされます。これは、QARLRSRT 内の 'WHERE' フィールドの "M" (= "moved") 値すべてを "D" (= "disk-resident") に戻すことで行います。それぞれの対応する報告書テキスト・オブジェクトが「root」ファイル・システム内の報告書ディレクトリに移動した場合、このフィールドの値は "M" (= "moved") に変更されています。これらの移動を完了したら、これらの一時値を "D" (= "disk-resident") に戻します。このフィールドのその他の値 ("O" = optical、"T" = tape、"D" = disk) はすべて変更されません。

エラー分析

- 誰か他の人が OnDemand を使用していたり、ユーザーがプログラムに必要な権限を持っていないと、直ちにエスケープ・メッセージが生成されます。
- QARLRSRT ファイルからレコードを選択および処理してプログラムを実行すると、以下に示す形式で要約メッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、ジョブ・ログをチェックして、エラーを探してください。
- プログラムは、終了すると、"QRLRIDCCLM COMPLETED: ..." という語から始まるテキストを持つ CPF9898 完了メッセージを生成します。この要約状況メッセージは、ジョブ・ログに必ず表示されます。このプログラムはジョブ・ログを必ず出力します。プログラムを対話式で実行した場合は、ワークステーションに "QRLRIDCCLM COMPLETED" というメッセージが表示されます。プログラムをバッチで実行した場合は、ワークステーションに "batch job-completed" というメッセージが表示されます。"QRLRIDCCLM COMPLETED..."完了メッセージには、以下の要約情報が含まれています。

SRT STATUS = xx...x

このジョブ内の 1 次処理プログラムが終了したときの QARLRSRT の「ファイル入出力」状況。有効な値は以下のとおりです。

SRT-EOF

正常な状況。選択されたすべてのレコードが読み取られ、更新されたことを示します。

ERROR

ファイル・アクセス・エラーまたは入出力エラーが発生した可能性があることを示します。この状況は調査して、修正しなければなりません。ジョブ・ログをチェックしてください。

SRT_OPNERR

プログラムが QARLRSRT をオープンできなかったことを示します。この状況を調査し、修正してください。ジョブ・ログをチェックしてください。

SRT_UPDERR

SQL 更新時にエラーが検出された可能性があることを示します。この状況を調査し、修正してください。ジョブ・ログをチェックしてください。

SRT RECORDS UPDATED = nnnnn

処理された QARLRSRT レコードの総数。この数値は、ライブラリー QUSRRDARS 内のファイル QARLRSRT の、'WHERE' フィールドが "Moved" を表す "M" であったレコードの総数と一致しなければなりません。

また、この数値は、前のステップのすべての実行に対する "TXT MOVED" 値の累積総数とも一致しなければなりません。(前述のステップ 2「報告書の移動」。)

- ジョブ終了の要約メッセージから数値をチェックし、ジョブ・ログを調べたら、以下のステップに従って、このステップの結果をチェックしてください。
- 「報告書の移動」ステップ (前述のステップ 2) のすべての実行で移動した報告書の総数と比較します。
- このステップによって更新された SRT レコード ("SRT RECORDS UPDATED") の数と比較します。

エラー回復

QRLRIDCCLM の回復プロセスは、エラー条件を修正した後に単にプログラムを実行するだけのことです。プログラムに割り込みが生じる場合は、何も変更せずに再実行することができます。プログラムを再実行すると、明らかに "SRT RECORDS UPDATED" の総数 (上記を参照) に影響が及びます。問題を突き止めるために、ジョブ・ログは **QRLRIDCCLM** を実行するたびに必ず保管してください。

HFS フォルダの削除

準備

- ステップ 2「報告書の移動」が正常に完了したことを確認します。
- OnDemand 機能を誰も使用していない、または使用する予定がないことを確認します。

プロセス

- QSECOFR ユーザー・プロファイル、または "*ALLOBJ" 権限を持つプロファイルを使用して、サインオンします。
- ライブラリー・リストに QRDARS ライブラリーを追加します。
- 以下のコマンドのいずれかを使用して、「HFS フォルダの削除」プログラム QRLRIDCDF を実行します。

```
SBMJOB CMD(CALL PGM(QRLRIDCDF) PARM(' '))  
CALL PGM(QRLRIDCDF) PARM(' ')
```

プログラムをバッチで実行する場合は、SBMJOB コマンドを使用することをお勧めします。このプログラムは実際には「バッチ・ジョブ」なので、QRLRIDCMOV をバッチ・ジョブとして実行すると、出力されるジョブ・ログが小さくなります。プログラムを対話式で実行する場合は、システム値 QINACTITV で指定する対話式ジョブのタイムアウト間隔が *NONE に変更されていることを確認します。これで、プログラムは確実に最後まで実行されます。

- プログラム QRLRIDCDF により、HFS (/QDLS) ファイル・システム内の古い OnDemand フォルダと、それらの報告書フォルダ内に入っていた可能性があるサブフォルダがすべて削除されます。空でないフォルダは削除できず、システム上に残ります。したがって、「報告書の移動」ステップ (ステップ 2) によって新規ディレクトリーに移動されていない報告書テキストは破棄されません。オリジナルのテキスト・オブジェクトは、システム上の元の HFS フォルダ内に残ります。

エラー分析

- 誰か他の人が OnDemand を使用していたり、ユーザーがプログラムに必要な権限を持っていないと、直ちにエスケープ・メッセージが生成されます。
- QARLRACT のレコードを使用するプログラムを実行し、HFS フォルダを検索して削除すると、以下に示す形式で要約メッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、ジョブ・ログをチェックして、エラーを探してください。
- プログラムは、終了すると、"QRLRIDCDF COMPLETED: ..." という語から始まるテキストを持つ CPF9898 完了メッセージを生成します。この要約状況メッセージは、ジョブ・ログに必ず表示されます。このプログラムはジョブ・ログを必ず出力します。プログラムを対話式で実行した場合は、ワークステーションに "QRLRIDCDF COMPLETED" というメッセージが表示されます。プログラムをバッチで実行した場合は、ワークステーションに "batch job-completed" というメッセージが表示されます。"QRLRIDCDF COMPLETED..."完了メッセージには、以下の要約情報が含まれています。

ACT RECS = nnnnn

プログラムが読み取った QARLRACT レコードの総数。この数値は、ライブラリー QUSRRDARS 内のファイル QARLRACT 内のレコードの総数と一致しなければなりません。

ACT DUPS = nnnnn

一意ではない 'CDTYPE' (報告書名) 値を持つ QARLRACT レコードの数。すなわち、複数のバージョンが定義された各報告書では、最初を除くすべてが「重複」します。報告書の複数のバージョンは、同じフォルダまたはディレクトリーに格納されます。

ACT SKIPS = nnnnn

フォルダの削除を起動する際に使用されない QARLRACT レコードの数。報告書のデータ・タイプが "UBND" の場合は、ACT レコードに対応する HFS フォルダはありません。

FLDRS DELETED = nnnnn

削除された HFS 報告書テキスト・フォルダの数。これらの「正常に削除された」フォルダにはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリーがあります。

FLDRS LEFT/NF = nnnnn

削除されなかった HFS フォルダの数。フォルダが削除されずに残っている理由は、以下のいずれかです。

- HFS ファイル・システム内にフォルダがなかった。
- フォルダそのもの、またはその中のサブフォルダが空ではなかった。

AFP DELETED = nnnnn

削除された "/AFPRSC" サブディレクトリーの数。これらの「正常に削除された」サブディレクトリーにはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリーがあります。

AFP LEFT/NF = nnnnn

予想外のエラーのため、または "/AFPRSC" サブフォルダが空ではなかった

ために削除されなかった "/AFPRSC" サブフォルダーの数。詳細については、ジョブ・ログをチェックしてください。

IDX DELETED = nnnnn

削除された "/INDEXES" サブフォルダーの数。報告書索引がテープまたは光ディスクにマイグレーションされている場合、このサブフォルダーは HFS 報告書フォルダー内に入っています。これらのサブフォルダーはすべて空であるはずなので、正常に削除されます。これらの「正常に削除された」サブフォルダーはそれぞれ、ジョブ・ログに詳細なエントリを持っています。

IDX LEFT/NF = nnnnn

予想外のエラーのため、または "/INDEXES" サブフォルダーが空ではなかったために削除されなかった "/INDEXES" サブフォルダーの数。詳細については、ジョブ・ログをチェックしてください。一般に、このエラーは、"/INDEXES" サブフォルダー内のオブジェクトを削除することで処理します。(注: この削除は、ディスク常駐の "/INDEXES" オブジェクトにしか適用されません。光ディスク・メディア上の "/INDEXES" サブディレクトリー内のこれらのオブジェクトは削除しないでください。)

- もう 1 つ必要なチェックが残っています。ジョブ終了の要約メッセージから数値をチェックして、ジョブ・ログを調べてください。この場合は、システム上に残っている古い HFS フォルダーもチェックする必要があります。WRKFLR コマンドを使用してください。

エラー回復

QRLRIDCDF の回復プロセスは、エラー条件を修正した後に単にプログラムを再実行するだけのことです。プログラムに割り込みが生じる場合は、何も変更せずに再実行することができます。プログラムを再実行すると、明らかに完了メッセージ内の各種の総数 (上記を参照) に影響が及びます。問題を突き止めるために、ジョブ・ログは **QRLRIDCDF** を実行するたびに必ず保管してください。

付録 B. システムから OnDemand を削除する場合の考慮事項

この付録は、ライセンス・プログラム **5722-RD1** に対してライセンス・プログラムの削除 (*DLTLICPGM*) コマンドを使用して OnDemand 機能を削除した後も存続するオブジェクトをリストしています。これらのオブジェクトは、OnDemand をシステムから永久的に削除する場合には、削除して構いません。これらのオブジェクトを削除すると、まだ物理メディア (テープ・ボリュームまたは光ディスク・ボリューム) が存在していても、テープまたは光ディスクのデータはいずれも検出することができなくなります。OnDemand プログラムを再インストールしても、このメディアのデータにアクセスすることはできません。

基本機能

表 4. *DLTLICPGM* の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
QRDARS400	*USRPRF	QSYS
QRDARS4001	*USRPRF	QSYS
QRDARS4002	*USRPRF	QSYS
QRDARS4003	*USRPRF	QSYS
QRDARS4004	*USRPRF	QSYS
QRDARS4005	*USRPRF	QSYS
QRDARSADM	*USRPRF	QSYS
QRDARS400	*AUTL	QSYS
QRDARSADM	*AUTL	QSYS

表 5. *DLTLICPGM* の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
QARLCOARC	*FILE	QUSRRDARS
QARLCOVOL	*FILE	QUSRRDARS
QARLCOVOLL	*FILE	QUSRRDARS
QARLCSTGG	*FILE	QUSRRDARS
QARLCTARC	*FILE	QUSRRDARS
QARLCTDEV	*FILE	QUSRRDARS
QARLCTDEVL	*FILE	QUSRRDARS
QARLCTVOL	*FILE	QUSRRDARS
QARLCTVOLL	*FILE	QUSRRDARS
QSAMPLES	*FILE	QUSRRDARS
QRLCJRN	*JRN	QUSRRDARS
QRLCJRxxxx	*JRNRCV	QUSRRDARS

ここで xxxx は、OnDemand によって自動的に作成されたジャーナル・レシーバーの数に応じて、0001 から 9999 までの任意の数です。

スプール・ファイル・アーカイブ機能

表 6. DLTLICPGM の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
QARLRACT	*FILE	QUSRRDARS
QARLRACTG	*FILE	QUSRRDARS
QARLRACTL	*FILE	QUSRRDARS
QARLRACTR	*FILE	QUSRRDARS
QARLRACTV	*FILE	QUSRRDARS
QARLRANN	*FILE	QUSRRDARS
QARLRAPP	*FILE	QUSRRDARS
QARLRAUDIT	*FILE	QUSRRDARS
QARLRCOL	*FILE	QUSRRDARS
QARLRFOT	*FILE	QUSRRDARS
QARLRIN	*FILE	QUSRRDARS
QARLRLV	*FILE	QUSRRDARS
QARLRNQ	*FILE	QUSRRDARS
QARLRPOP	*FILE	QUSRRDARS
QARLRPRT	*FILE	QUSRRDARS
QARLRRSC	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSEC1	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSEC2	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSEC3	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSEC4	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSEC5	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSRT	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSRTC	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSRTCD	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSRTRL	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSRTSL	*FILE	QUSRRDARS
QARLRSRTSQ	*FILE	QUSRRDARS
QARLRxxxPF	*FILE	QUSRRDARS
QARLRxxx1	*FILE	QUSRRDARS
QARLRxxx2	*FILE	QUSRRDARS
QARLRxxx3	*FILE	QUSRRDARS
QARLRxxx4	*FILE	QUSRRDARS
QARLRxxx5	*FILE	QUSRRDARS
QARLRxxx6	*FILE	QUSRRDARS

ここで、xxx は 1 から 3 文字までの任意の英数字です。すべてのシステムには、xxx が 000 に設定された、少なくとも 1 セットのこれらのファイルがあります。報告書グループを使用している場合は、この xxx がユーザーのグループ省略語であるファイルのセットが追加されています。

表 7. DLTLICPGM の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
ERROR	*OUTQ	QUSRRDARS
PROCESSED	*OUTQ	QUSRRDARS
QRDARS400	*OUTQ	QUSRRDARS

表 8. DLTLICPGM の後も存続するオブジェクト

IFS ディレクトリー
/QIBM/UserData/RDARS
/QIBM/UserData/RDARS/SpoolFile/...
/QIBM/UserData/RDARS/Recovery/...

表 9. DLTLICPGM の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
CHECKSTMTS	*AUTL	QSYS
MAPICS	*AUTL	QSYS
TSTSEQ	*AUTL	QSYS
XXXXXXXXXX	*AUTL	QSYS

ここで xxxxxxxxxxx は、ユーザー定義の報告書の名前で、最大 10 文字まで使用できます。OnDemand に定義する報告書ごとに 1 つの権限リストを持つこととなります。

表 10. DLTLICPGM の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
QRLRDLOO	*DTAARA	QUSRRDARS
QRLRGLDEFS	*DTAARA	QUSRRDARS
QRLRIFSCNV	*DTAARA	QUSRRDARS
XXXXXXXXXX	*DTAARA	QUSRRDARS

ここで xxxxxxxxxxx は、OnDemand ユーザー・プロファイルの名前で、OnDemand の使用に基づくデフォルト値とその他の値から成り立ちます。OnDemand で報告書を検索したユーザーごとに 1 つのデータ域を持つことができます。

オブジェクト・アーカイブ機能

表 11. DLTLICPGM の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
QARLOAUDIT	*FILE	QUSRRDARS
QARLOCOL	*FILE	QUSRRDARS
QARLODET	*FILE	QUSRRDARS
QARLOOCT	*FILE	QUSRRDARS
QARLOODT	*FILE	QUSRRDARS
QARLOOMT	*FILE	QUSRRDARS
QARLOSOT	*FILE	QUSRRDARS
QARLOSOTC	*FILE	QUSRRDARS
QRLOIFSCNV	*DTAARA	QUSRRDARS

表 12. DLTLICPGM の後も存続するオブジェクト

IFS ディレクトリー
/QIBM/UserData/RDARS
/QIBM/UserData/RDARS/Object/...

レコード・アーカイブ機能

表 13. DTLICPGM の後も存続するオブジェクト

オブジェクト	タイプ	ライブラリー
QARLAAUDIT	*FILE	QUSRRDARS

AnyStore 機能

AnyStore の削除後には、オブジェクトは残りません。

クライアント/サーバー機能

クライアント/サーバー機能の削除後には、オブジェクトは残りません。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator
3605 Highway 52 N

Rochester, MN 55901-7829
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムの派生物です。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All Rights Reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書は、IBM Content Manager OnDemand for iSeries ライセンス・プログラムの使用および管理の支援を目的としています。本書には、IBM Content Manager OnDemand for iSeries ライセンス・プログラムで提供される汎用プログラミング・インターフェース情報とそれに関する指針情報も記載されています。

汎用プログラミング・インターフェースによって、お客様は IBM Content Manager OnDemand for iSeries ライセンス・プログラムのサービスを利用するプログラムを作成することができます。

商標

Advanced Function Presentation、Advanced Function Printing、AFP、AS/400、DB2、iSeries、Operating System/400、OS/400、PowerPC、Print Services Facility、および Redbooks は、IBM Corporation の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft® Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

圧縮 15, 16
アンバンドル (分割) 報告書 (UBND)
定義 20
インストール手順 5
インストール・パッケージ 3
オブジェクト管理サイクル
定義 19
オブジェクトの定義 19
オプションのソフトウェア 2
オプションのハードウェア 1

[カ行]

キー
定義 18
キー・レベルのセキュリティ 34
記憶域グループ
定義 20
記憶域要件 2
機能テスト
印刷 11
スプール・ファイル・アーカイブ 8
注釈 11
ファクシミリ 11
ATTN キー 11
検索
定義 17
高機能印刷 (AFP) 16
高速パス・コマンド
GO CMDOND 23
GO CMDRDAR 23
GO ONDEMAND 22
GO RDARS 22
GO RDARSM 23
GO RDARSOBJ 23
GO RDARSRLA 23
GO RDARSRPT 23
コマンド
高速パス 23
ADDLIBLE 8
DSPLIBL 8
FNDRPTRDAR 8
STRARCRDAR 7

コマンド (続き)
STRCDSRDAR 6

[サ行]

再書き込み可能光ディスク・カートリッジ
28
索引定義 18
削除, システムからの OnDemand の 55
参照ストリング
ストリング 19
サンプル記憶域グループ (RDAROPT) 28
スプール・ファイル・アーカイブ
機能テスト 8
定義 15
テスト 6
セキュリティ
アプリケーション・レベル 32
オブジェクト・アーカイブ 34
キー・レベル 34
報告書グループ・レベル 33
報告書レベル 33
AnyStore 34
セグメンテーション
定義 20
絶対処理
定義 18
ソフトウェア要件 1

[タ行]

多機能光ディスク・ライブラリー 28
データ記憶域要件 2
テスト, インストールの 7

[ハ行]

ハードウェア要件 1
バックアップ・メディア・サービス
AS/400 用 16, 18
バンドル
定義 18
ヒット・リスト 18
ピボット値
定義 19
表示フィールドの定義 18
プログラム記憶域要件 2
文書報告書 (DOC)
定義 18

ページ報告書 (PAGE)
定義 19
ヘルプ
画面 20
フィールド 21
報告書オーバーレイ
定義 19
報告書オカレンス
定義 19
報告書管理サイクル
定義 19

[マ行]

マイグレーション 18
マイグレーション方針名の定義 19
無索引報告書 (NODX)
定義 19

A

ADDLIBLE コマンド 8
AnyStore
定義 16
ATTN キー 11

C

CL プログラム 31

D

DLTLICPGM の考慮事項 55
DSPLIBL コマンド 8

F

FILESTAT エラー・コード 12
FNDRPTRDAR コマンド 8

G

GO CMDOND 23
GO CMDRDAR 23
GO ONDEMAND 22
GO RDARS 22
GO RDARSM 23
GO RDARSOBJ 23
GO RDARSRLA 23

GO RDARSRPT 23

P

PTF 5

R

RDAROPT (サンプル記憶域グループ) 28

S

STRARCRDAR コマンド 7

STRCDSRDAR コマンド 6

W

WORM 光ディスク・カートリッジ 28

[特殊文字]

*JRN 55

*JRNRCV 55



プログラム番号: 5722-RD1

Printed in Japan

SD88-5070-04



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12